新日軽 カーゲート「サンルーチェ」取付説明書

取説番号 ME-2038
改-1

この度は、新日軽の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
正しい施工をしていただく為この取付説明書をお読みください。
必ず専門業者による施工をしてください。
施工完了後はお施主様へお渡しください。

施工上の注意事項

施工にあたっては次の点をご注意ください。

①ガス給湯器などの熱や排気ガスが製品に直接当たる、またはこもるような場所に設置しないでください。熱による塗装劣化・剥離（はくり）、また排気ガスによるアルミ商品（スチール・ステンレス含む）の腐食の原因になります。
②モルタル用に海砂を使用されますと、多量に塩分が含まれています為、アルミの腐食の原因になりますのでご使用を避けていただくか、十分水洗いしたものをご使用ください。
③モルタルやコンクリートの抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になりますので工事中にアルミ製品の表面を流れない様にご注意してください。
④モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用があるので、その使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物、珪酸ナトリウム等の入っていないものをご使用ください。
⑤施工時にアルミ製品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取り扱いには十分注意してください。
⑥アルミ製品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合にはビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
⑦腐食の恐れのある接着剤や化学製品を施工上使用する場合は、アルミ製品と接触しない様にしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。
⑧寒冷地では柱を立ててからモルタルを詰めてください。モルタルを入れてから柱を立てますと、柱内部に水が入り凍結破損の原因となります。
⑨養生期間は十分（4日～1週間）にとり、養生期間中は重いものをのせたり、振動させたりしないように指示してください。
⑩施工終了後は扉の開閉チェックを行い、不具合が無いか確認してください。
⑪みだりに改造・変更しないでください。
⑫キャスターの走行床面は、水平に仕上げてください。

この取付説明書に示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

絵表示	意味
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると使用者が負傷する危険や物的損害の発生することを表しています。

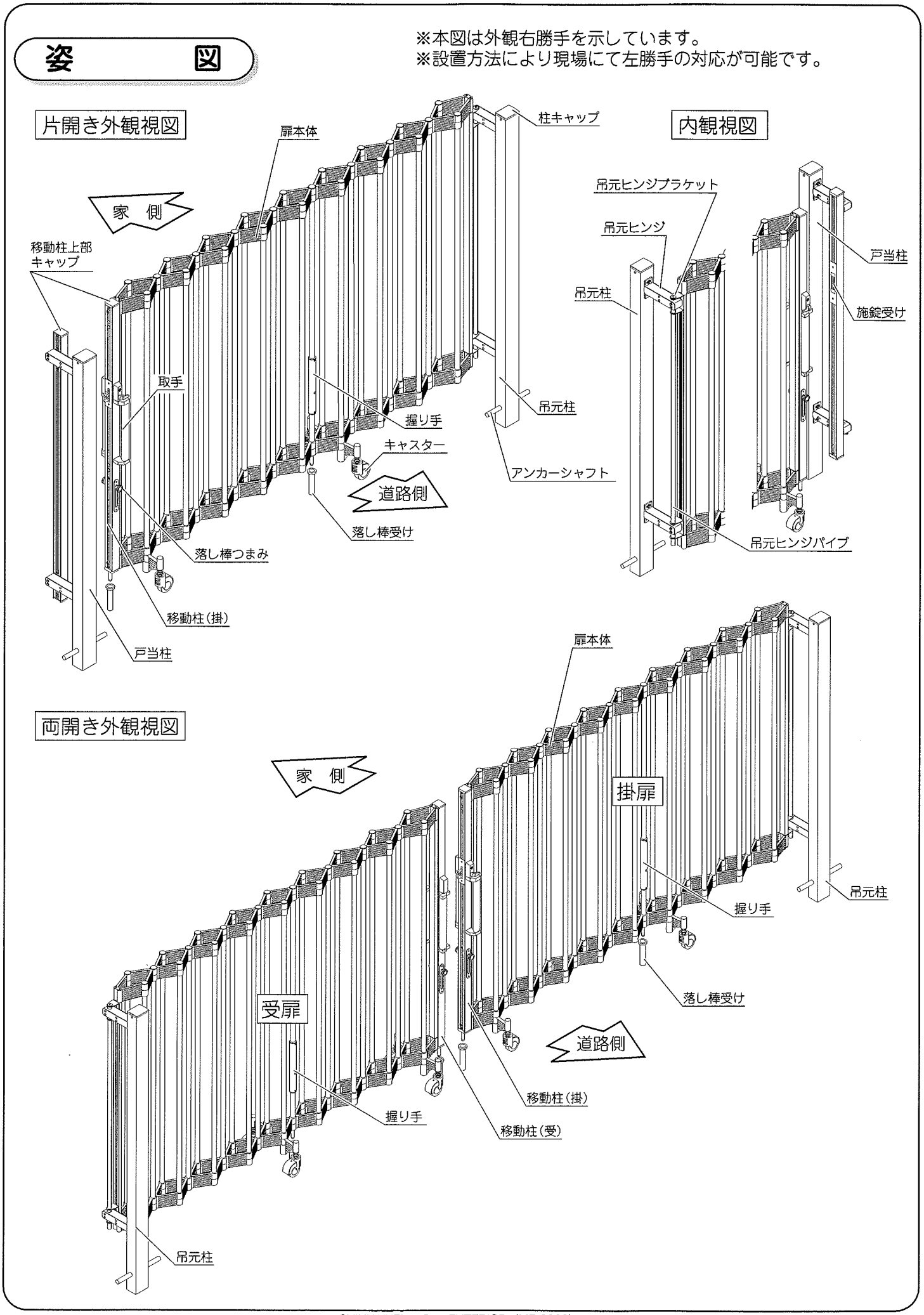
絵表示	ご使用上の注意とお願い
❗	「必ず行っていただくこと」を示しています。

目次

姿図 …… P2
梱包明細 …… P4
納まり図・規格寸法表 …… P6
施工手順
1 キャップの取り付け方法 …… P11
2 戸当柱の組み替え（片開き・片開き親子・片開き角地納まりの場合）…… P13
3 柱の埋設 …… P14
4 扉本体の吊り込み …… P15
5 移動柱と扉本体の取り付け方法 …… P16
6 片開き親子ジョイントの取り付け方法（片開き親子納まりの場合）…… P18
7 角地部材の組み替え方法（角地納まりの場合）…… P20
8 角地部材の取り付け方法（角地納まりの場合）…… P22
扉本体の調整方法 …… P24
9 キャスターの高さ調整 …… P24
10 片開き用扉本体の高さ調整（片開き・片開き親子・片開き角地納まりの場合）…… P25
11 片開き用施錠受けの高さ調整（片開き・片開き親子・片開き角地納まりの場合）…… P25
12 両開き用扉本体の高さ調整（両開き・両開き角地納まりの場合）…… P26
13 吊元柱・戸当柱と吊元・戸当ヒンジによる間口の調整幅 …… P27
14 落し棒受けの埋め込み …… P28

姿　　図

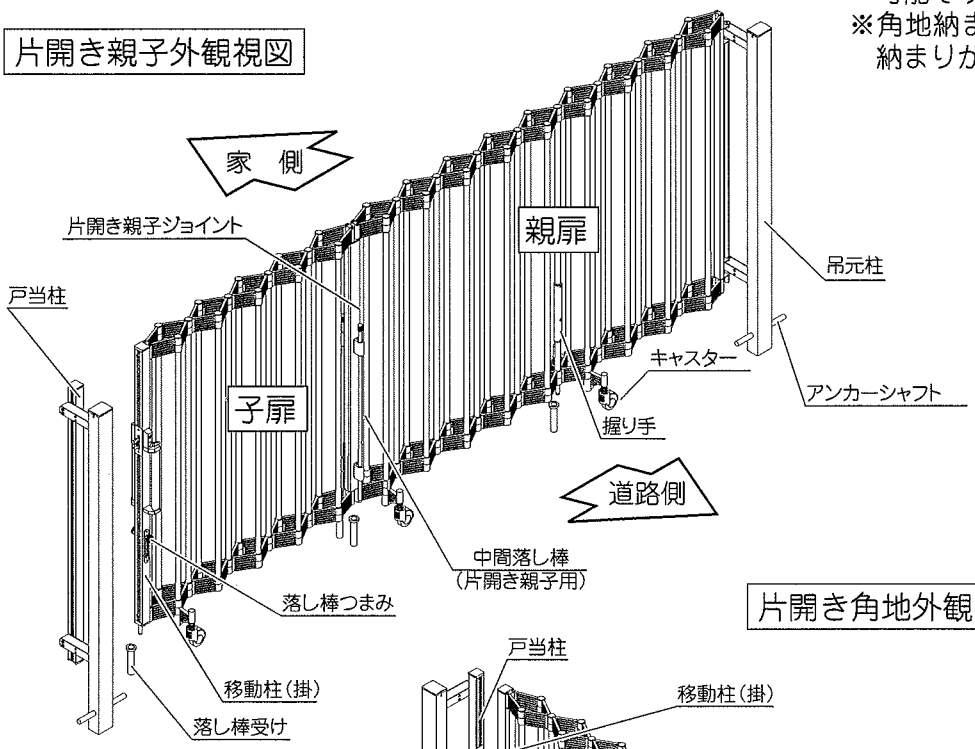
※本図は外観右勝手を示しています。
※設置方法により現場にて左勝手の対応が可能です。



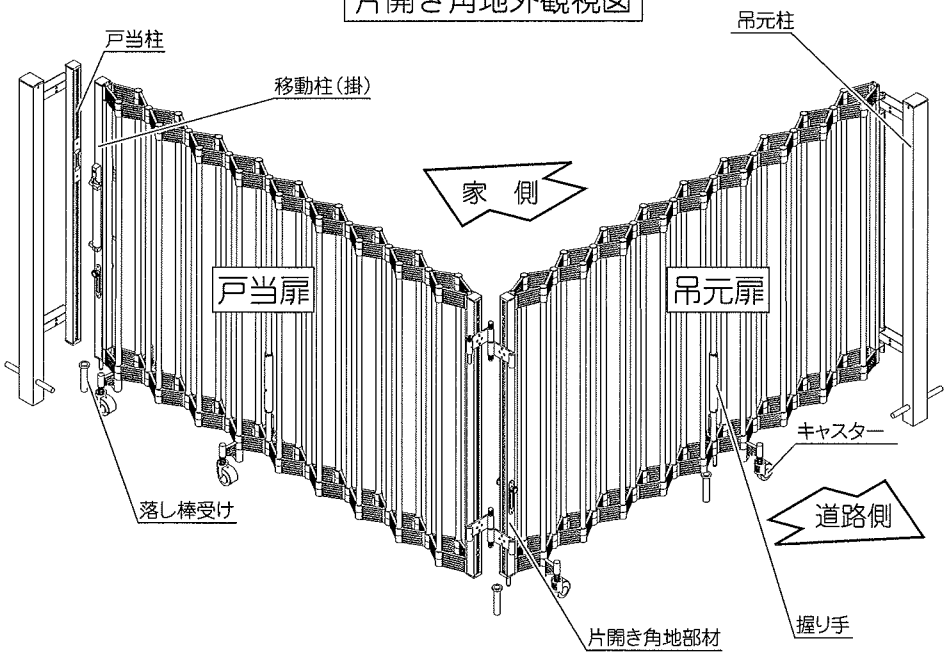
姿　　図

※本図は外観右勝手を示しています。
※設置方法により現場にて左勝手の対応が可能です。
※角地納まりの場合は、出隅、または入隅納まりが可能です。

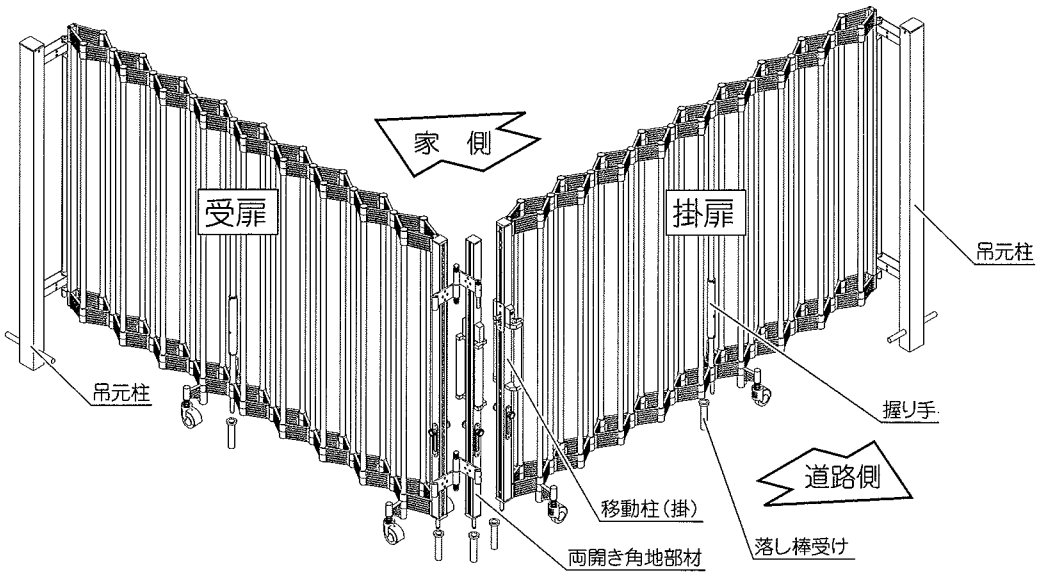
片開き親子外観視図



片開き角地外観視図

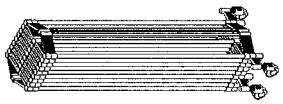
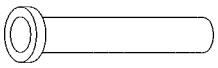


両開き角地外観視図

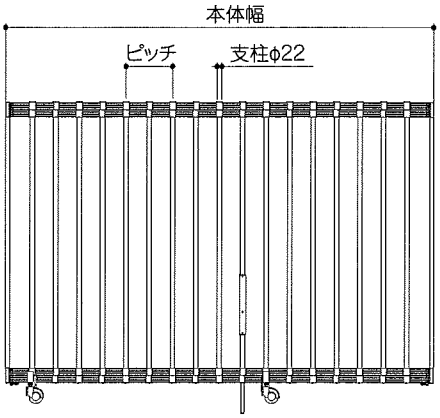


梱包明細

■ 本体

名称	略図	数量
扉本体		1
落し棒受け		規格寸法表(6～10ページ)参照

本体寸法について



呼称	スパン	ピッチ	本体幅	本体たたみ幅	落し棒受けの数
特寸 110S	3	225	931.5	219.5	0
130S	4	225	1156.5	249.5	0
特寸 160S	5	225	1381.5	279.5	0
180S	6	225	1606.5	309.5	0
特寸 200S	7	225	1831.5	339.5	0
220S	8	225	2056.5	369.5	1
特寸 250S	9	225	2281.5	399.5	1
270S	10	225	2506.5	429.5	1
290S	11	225	2731.5	459.5	1
310S	12	225	2956.5	489.5	1
340S	13	225	3181.5	519.5	2
特寸 360S	14	225	3406.5	549.5	2
380S	15	225	3631.5	579.5	2
特寸 400S	16	225	3856.5	609.5	2
430S	17	225	4081.5	639.5	2
特寸 450S	18	225	4306.5	669.5	3
470S	19	225	4531.5	699.5	3
特寸 490S	20	225	4756.5	729.5	3
特寸 520S	21	225	4981.5	759.5	3
540S	22	225	5206.5	789.5	3

■門柱セット

名称	略図	数量				
		片開き柱セット	両開き柱セット	片開き親子柱セット	片開き角地柱セット	両開き角地柱セット
吊元柱		1	2	1	1	2
戸当柱		1		1	1	
移動柱(掛)		1	1	1	1	1
移動柱(受)			1			
片開き親子ジョイント				2		
片開き角地部材					1	

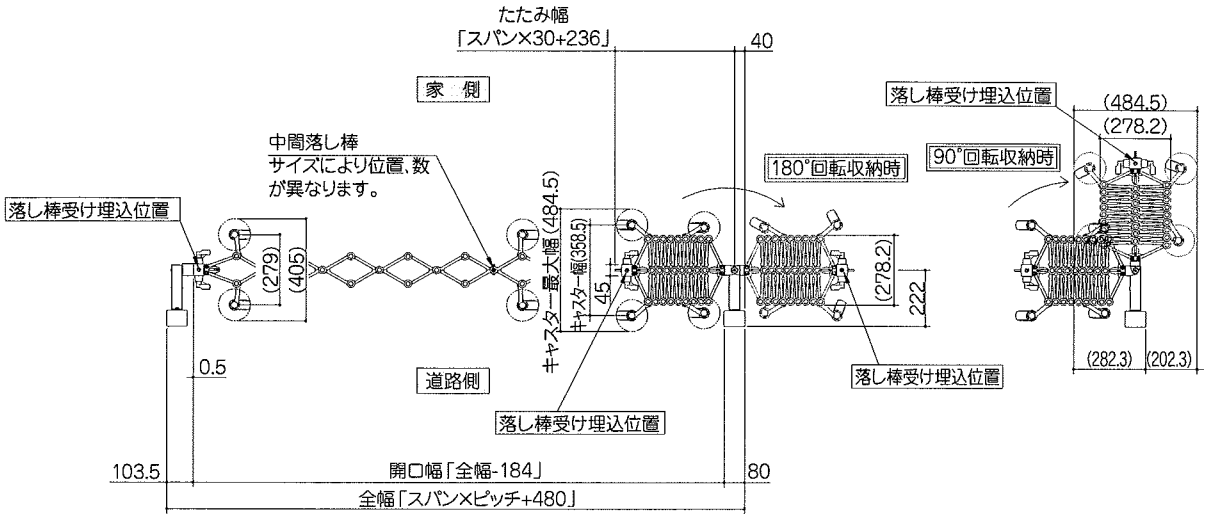
名　称		略　図	数　量				
			片開き柱セット	両開き柱セット	片開き親子柱セット	片開き角地柱セット	両開き角地柱セット
両開き角地部材							1
吊元ヒンジブラケット			2	4	2	2	4
吊元ヒンジパイプ			1	2	1	1	2
柱キャップ			2	2	2	2	2
移動柱上部キャップ			2	2	2	4	3
移動柱下部キャップ		(孔有り)	2	2	2	4	3
親子ジョイント上部カバー					2		
親子ジョイント下部カバー					2		
親子ジョイント金具					2		
ビスセット	トラスタッピンネジ M4×8L		12	12	12	20	16
	トラス小ネジ M5×12L		4	8	12	12	8
	平座金 φ16/φ5.5×T1.0		4	8	4	4	8
	六角ボルト M5×12L		4	8	4	4	8
	カバーワッシャ		2	4	2	2	4
	ナベドリルネジ M4×13L		1	2	1	1	2
アンカーシャフト			2	2	2	2	2
ビス穴フサギ			4	8	4	12	8
落し棒受け			3	6	4	5	7
中間落し棒セット (SK-1259)		片開き親子用			2		
鍵			3	3	3	3	3
取付説明書			1	1	1	1	1
取扱説明書			1	1	1	1	1

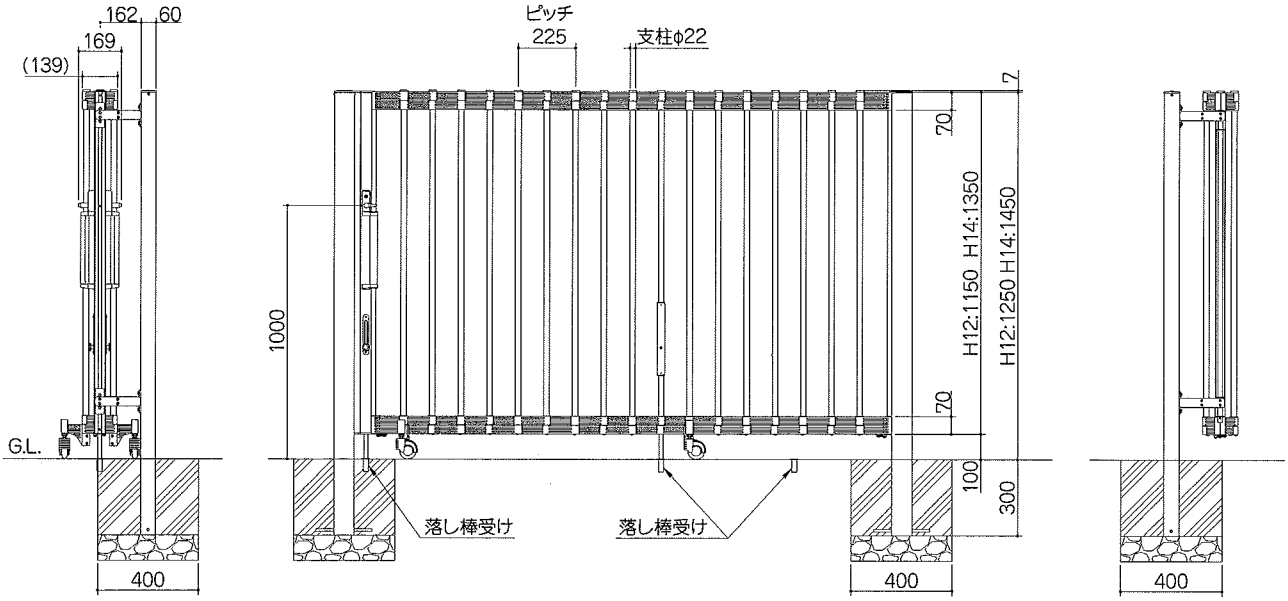
納まり図・規格寸法表

※ 本図は外観視・右勝手・内収納を示します。

回転収納部の落し棒受け埋設位置は、
90度または180度のどちらかになります。

片開き





呼称	スパン	全幅	開口幅 (180°回転収納時)	たたみ幅	中間落し棒の数
130SA	4	1380	1196	356	0
180SA	6	1830	1646	416	0
220SA	8	2280	2096	476	1
270SA	10	2730	2546	536	1
290SA	11	2955	2771	566	1
310SA	12	3180	2996	596	1
340SA	13	3405	3221	626	2
380SA	15	3855	3671	686	2
430SA	17	4305	4121	746	2
470SA	19	4755	4571	806	3
540SA	22	5430	5246	896	3

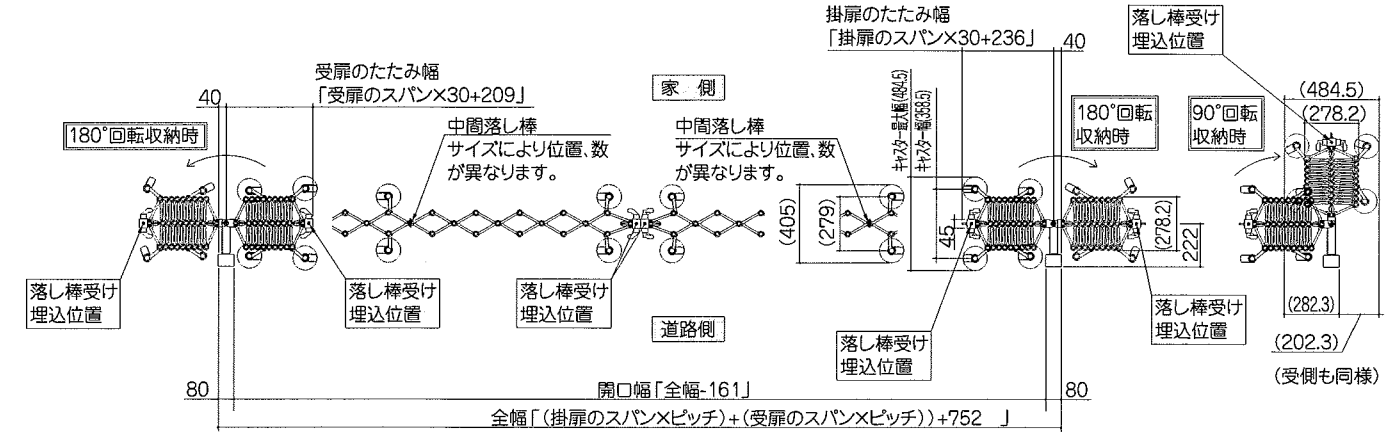
※規格寸法は、H:1200·H:1400共通です。
※特寸時は、4ページ(本体寸法について)を
参照の上、上記納まり図より算出してください。

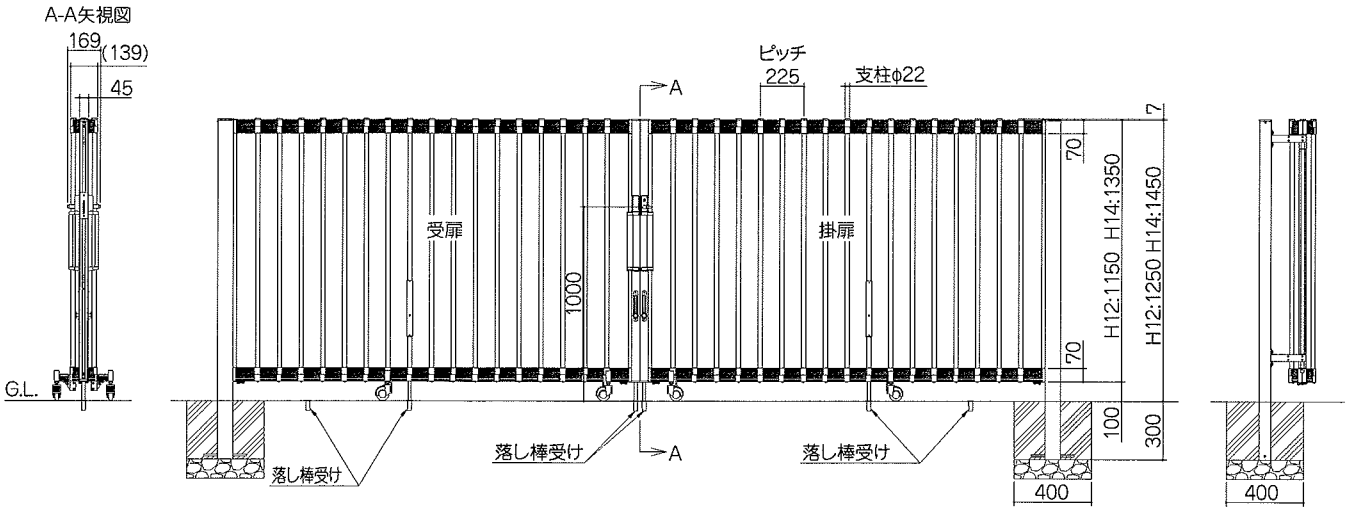
納まり図・規格寸法表

※ 本図は外観視・右勝手・内収納を示します。

回転収納部の落し棒受け埋設位置は、
90度または180度のどちらかになります。

両開き





	呼称	スパン 掛扉	スパン 受扉	全幅	子扉開口幅	開口幅(180°回転収納時)	たたみ幅 掛扉	たたみ幅 受扉	中間落し棒の数
両開き	340WA	6	6	3452		3291	416	389	0
	430WA	8	8	4352		4191	476	449	2
	520WA	10	10	5252		5091	536	509	2
	570WA	11	11	5702		5541	566	539	2
	610WA	12	12	6152		5991	596	569	2
	660WA	13	13	6602		6441	626	599	4
	750WA	15	15	7502		7341	686	659	4
	840WA	17	17	8402		8241	746	719	4
両開き親子	340FA	4	8	3452	881	3291	356	449	1
	390FA	4	10	3902	881	3741	356	509	1
	410FA	4	11	4127	881	3966	356	539	1
	430FA	4	12	4352	881	4191	356	569	1
	450FA	4	13	4577	881	4416	356	599	2
	500FA	4	15	5027	881	4866	356	659	2
	540FA	4	17	5477	881	5316	356	719	2
	590FA	4	19	5927	881	5766	356	779	3
	660FA	4	22	6602	881	6441	356	869	3

最大スパン数
34スパン以下

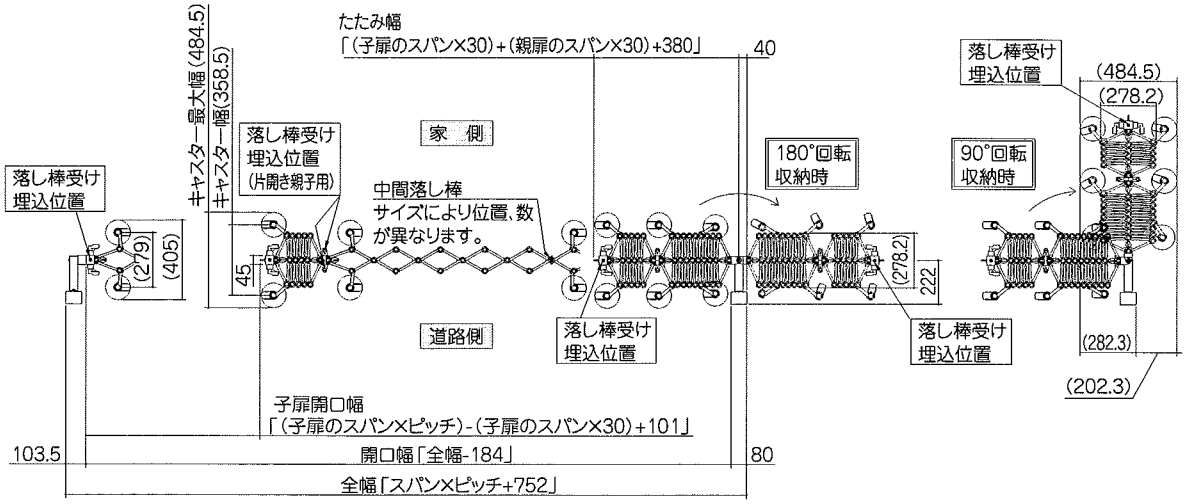
※規格寸法は、H:1200・H:1400共通です。
※掛扉・受扉の異なるサイズの組み合わせは、
上表を超えない範囲で可能です。
スパン数、納まり寸法の算出については、
4ページ(本体寸法について)を
ご参照ください。

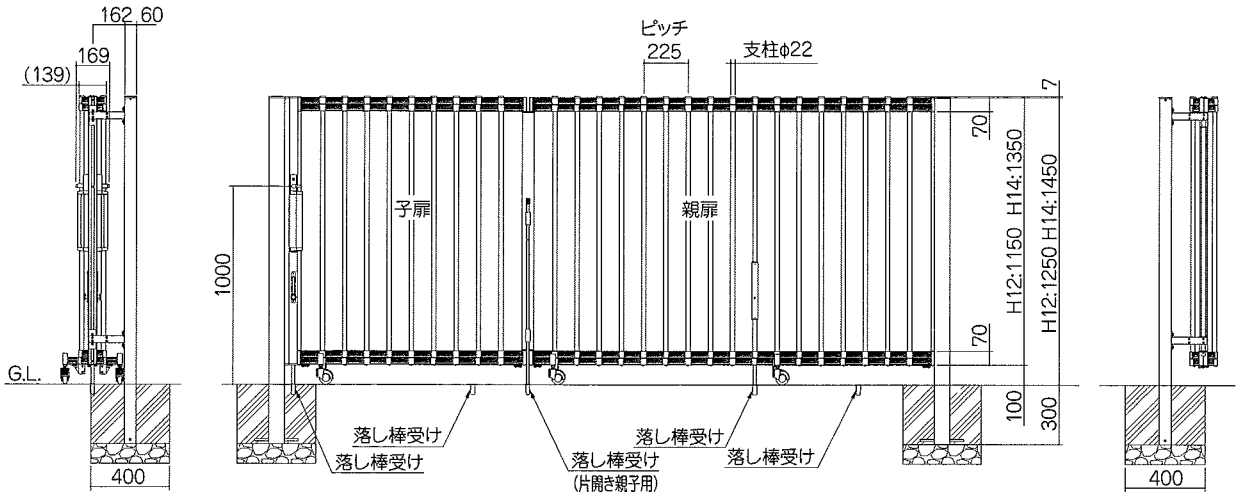
納まり図・規格寸法表

※ 本図は外観視・右勝手・内収納を示します。

回転収納部の落し棒受け埋設位置は、
90度または180度のどちらかになります。

片開き親子





呼称	スパン		全幅	子扉開口幅	開口幅(180°回転収納時)	たたみ幅	中間落し棒の数
	子扉	親扉					
300SFA	4	6	3002	881	2817	680	0
340SFA	4	8	3452	881	3267	740	1
390SFA	4	10	3902	881	3717	800	1
410SFA	4	11	4127	881	3942	830	1
430SFA	4	12	4352	881	4167	860	1
450SFA	4	13	4577	881	4392	890	2
500SFA	4	15	5027	881	4842	950	2
540SFA	4	17	5477	881	5292	1010	2

最大スパン数	組み合わせ条件
21スパン以下	子扉サイズ≦ 親扉サイズ

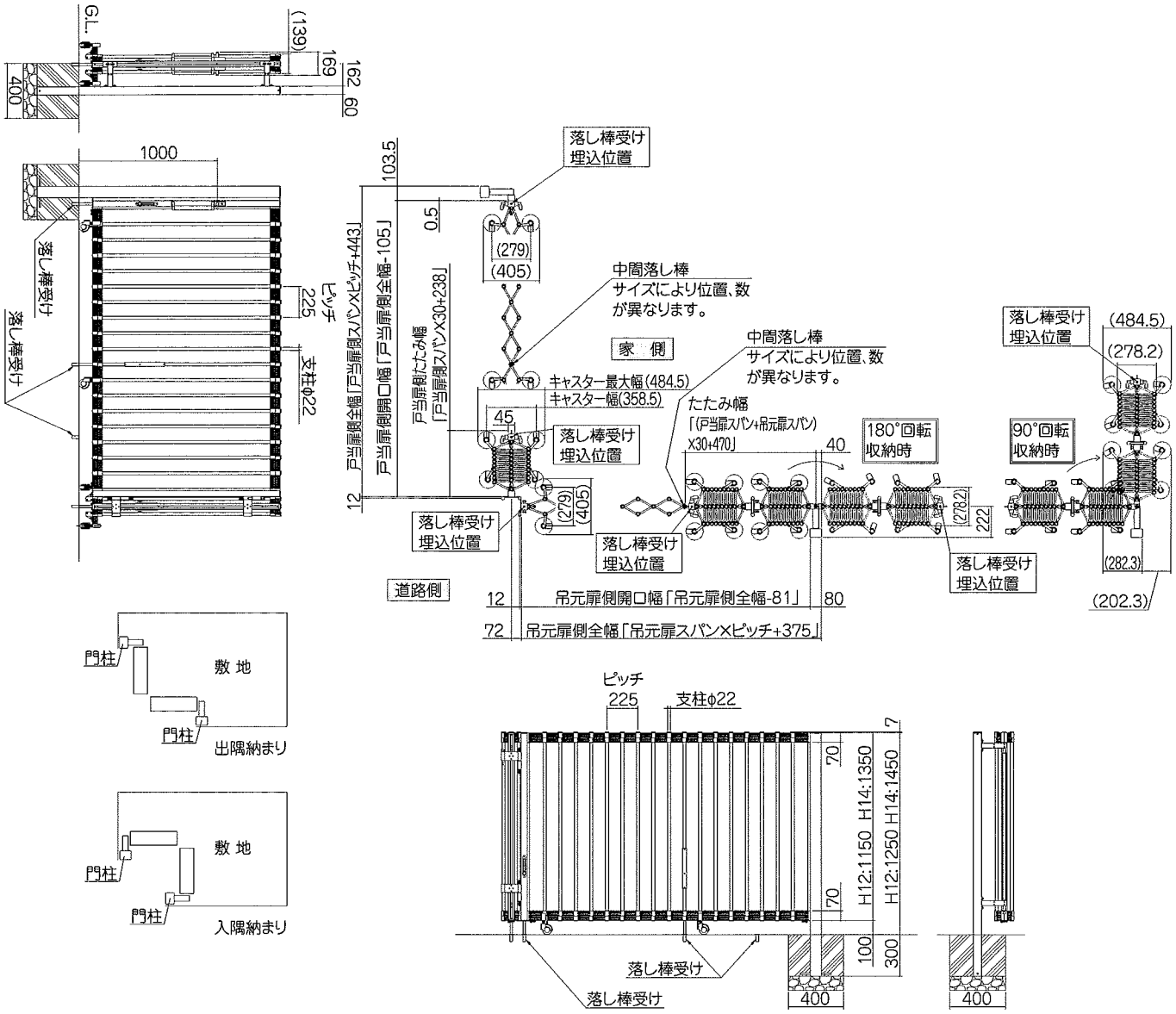
※規格寸法は、H:1200・H:1400共通です。
※掛扉・受扉の異なるサイズの組み合わせは、
上表を超えない範囲で可能です。
スパン数、納まり寸法の算出については、
4ページ(本体寸法について)を
ご参照ください。

納まり図・規格寸法表

※ 本図は外観視・右勝手・内収納を示します。

回転収納部の落し棒受け埋設位置は、
90度または180度のどちらかになります。

片開き角地



呼称	たたみ幅		全 幅		開口幅(180°回転収納時)		たたみ幅		中間落し棒の数
	戸当扉側	吊元扉側	戸当扉側	吊元扉側	戸当扉側	吊元扉側	戸当扉側	吊元扉側	
350SCA	6	6	1793	1725	1688	1644	418	830	0
440SCA	8	8	2243	2175	2138	2094	478	950	2
530SCA	10	10	2693	2625	2588	2544	538	1070	2
570SCA	11	11	2918	2850	2813	2769	568	1130	2
620SCA	12	12	3143	3075	3038	2994	598	1190	2

最大スパン数
24スパン以下

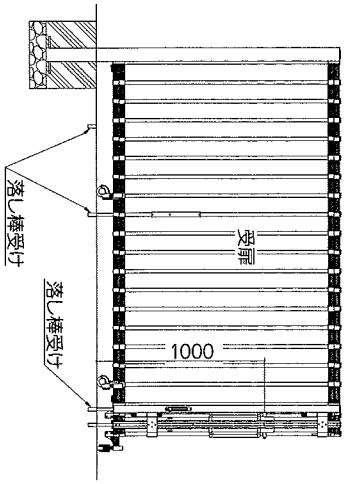
※規格寸法は、H:1200・H:1400共通です。
※掛扉・受扉の異なるサイズの組み合わせは、左表を超えない範囲で可能です。
スパン数、納まり寸法の算出については、4ページ(本体寸法について)をご参照ください。

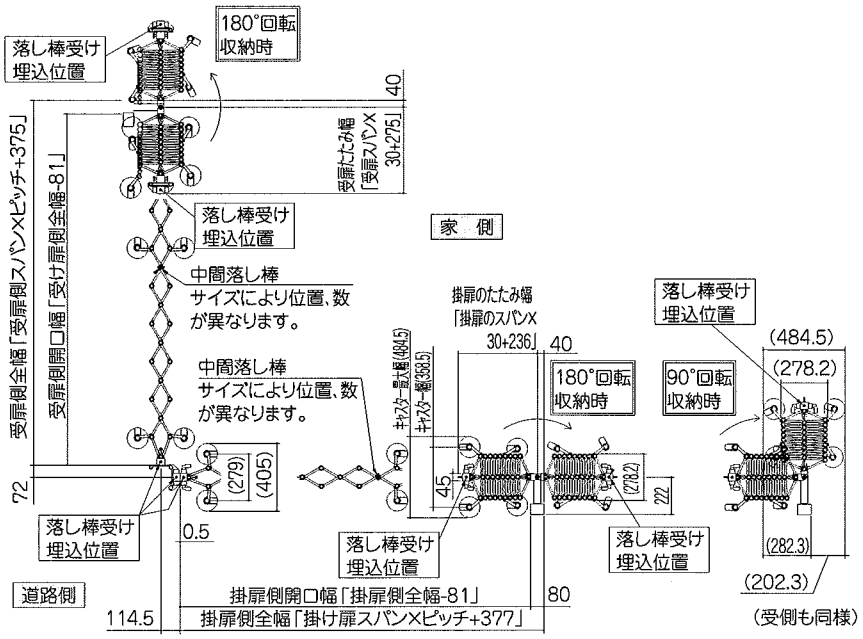
納まり図・規格寸法表

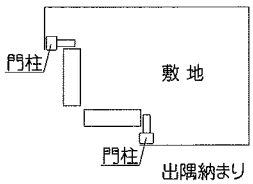
※ 本図は外観視・右勝手・内収納を示します。

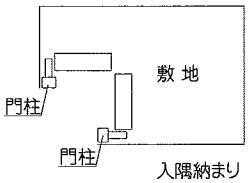
回転収納部の落し棒受け埋設位置は、
90度または180度のどちらかになります。

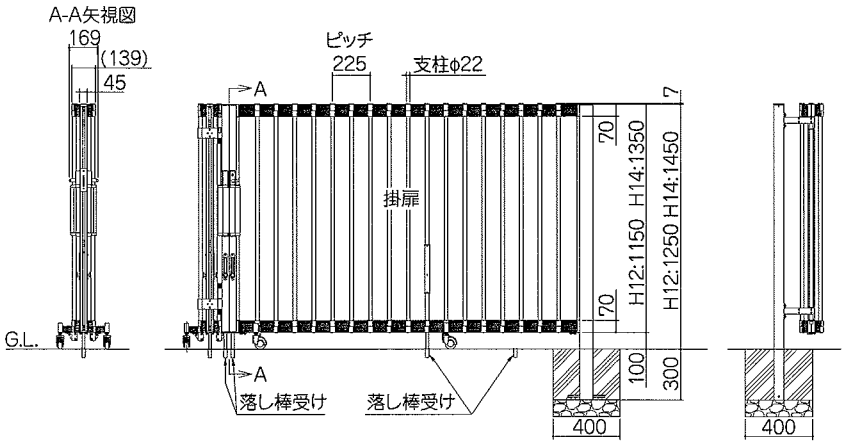
両開き角地











呼称	たたみ幅		全 幅		開口幅(180°回転収納時)		たたみ幅		中間落し棒の数
	掛扉側	受扉側	掛扉側	受扉側	掛扉側	受扉側	掛扉側	受扉側	
340CA	6	6	1727	1725	1646	1644	416	455	0
430CA	8	8	2177	2175	2096	2094	476	515	2
520CA	10	10	2627	2625	2546	2544	536	575	2
570CA	11	11	2852	2850	2771	2769	566	605	2
610CA	12	12	3077	3075	2996	2994	596	635	2

最大スパン数
24スパン以下

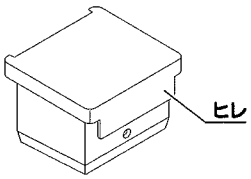
※規格寸法は、H:1200・H:1400共通です。
※掛扉・受扉の異なるサイズの組み合わせは、左表を超えない範囲で可能です。
スパン数、納まり寸法の算出については、4ページ(本体寸法について)をご参照ください。

施工手順

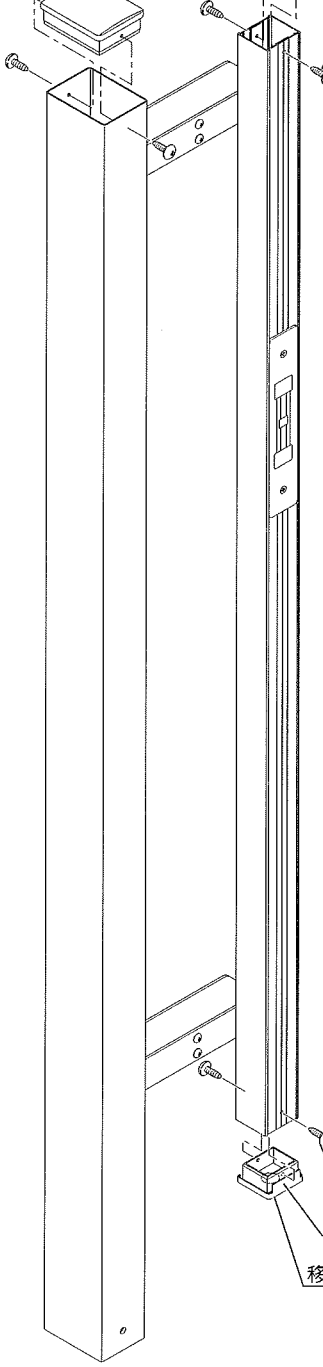
1 キャップの取り付け方法

■下図を参照して、柱キャップ、移動柱上部・下部キャップを取り付けてください。

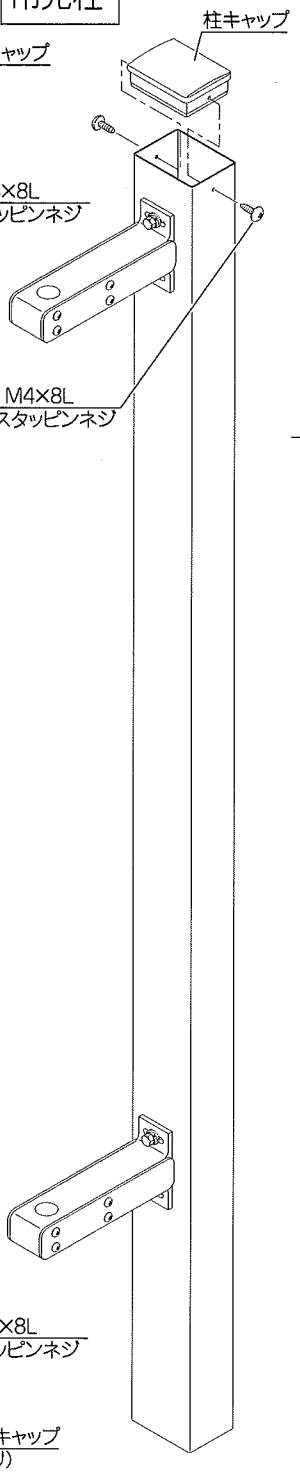
移動柱上部・下部キャップは**ヒレ**が下図の向きになるように取り付けてください。**ヒレ**を逆の向きに取り付けると移動柱が扉本体に取り付かなくなります。



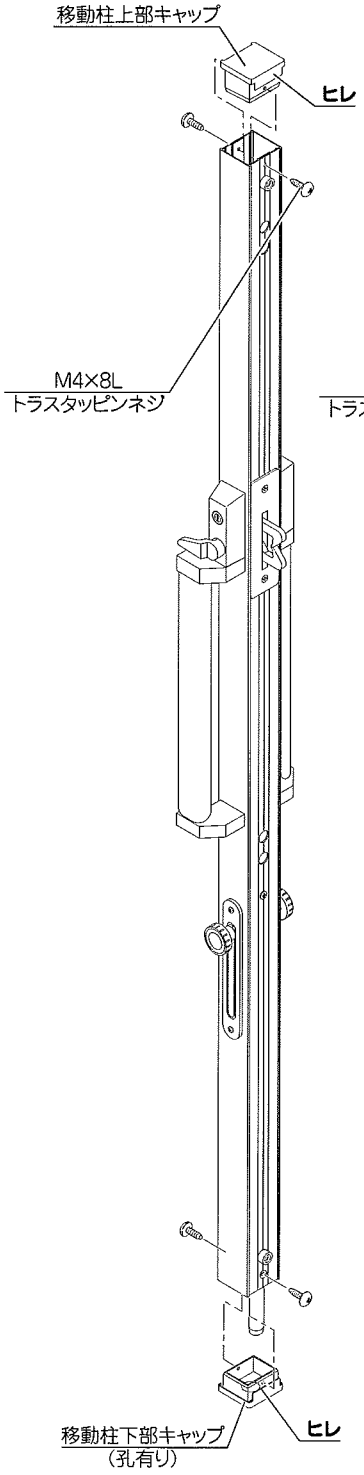
戸当柱



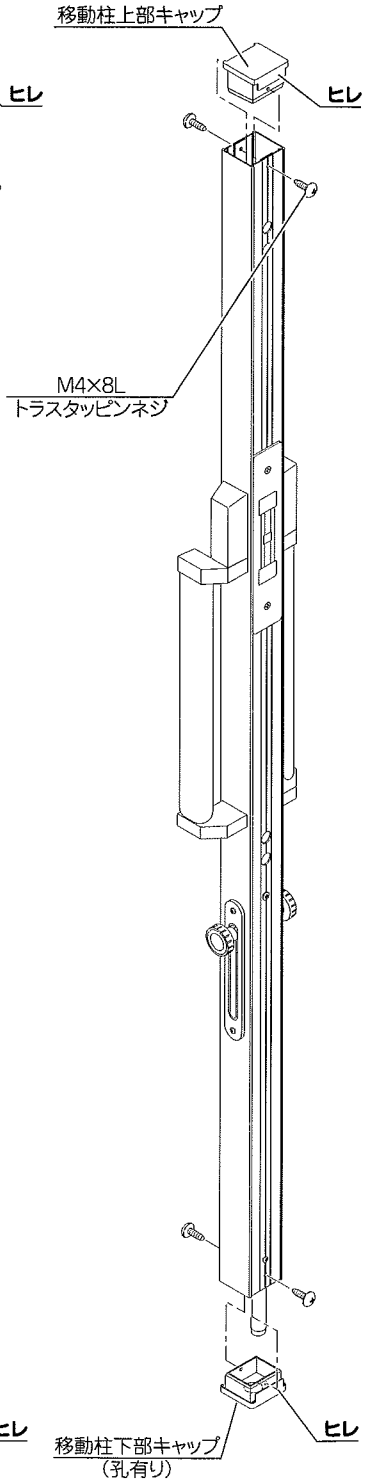
吊元柱



移動柱(掛)



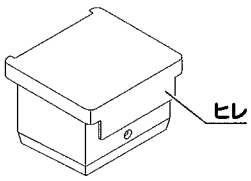
移動柱(受)

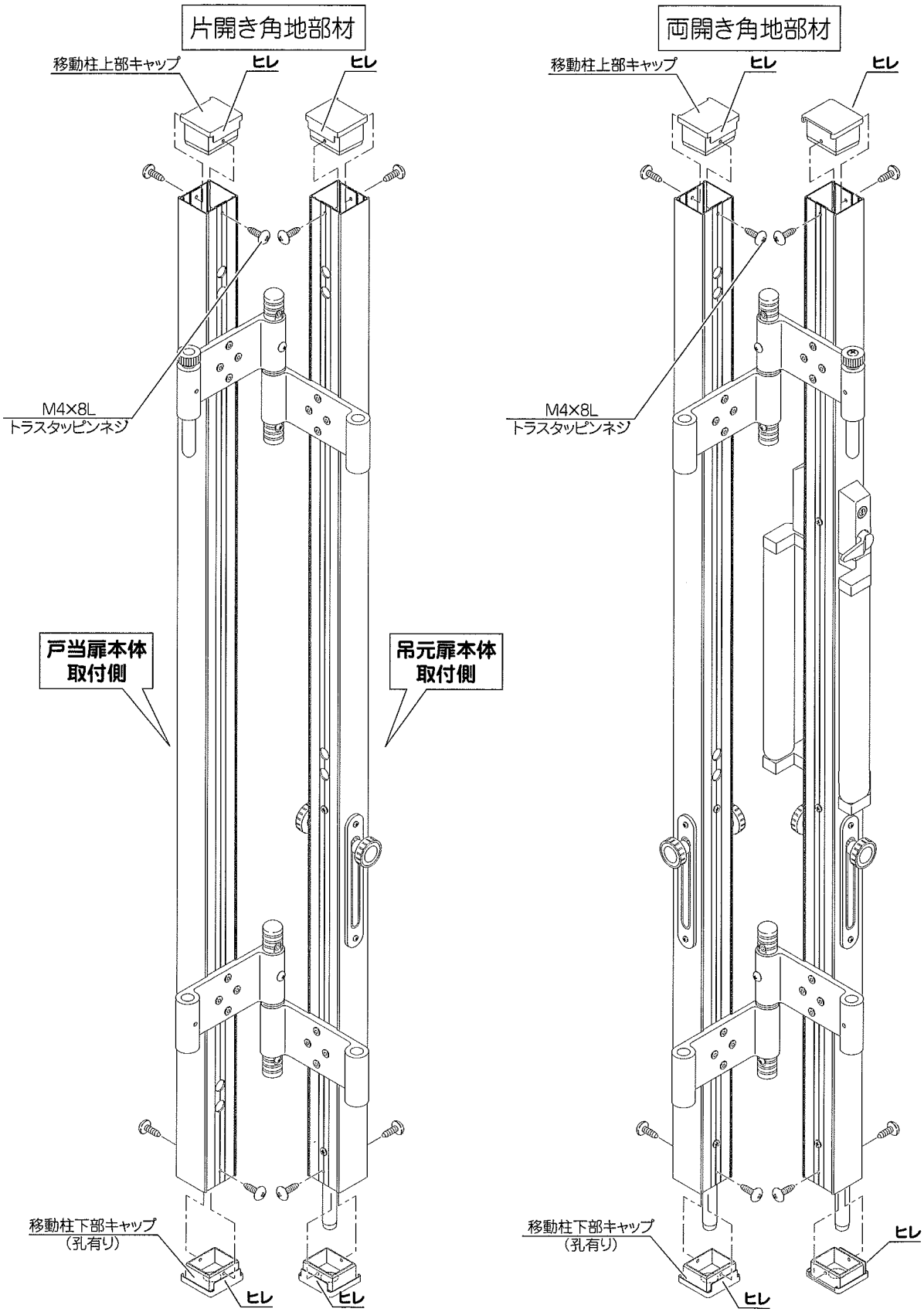


片開き角地部材・両開き角地部材のキャップの取り付け

■下図を参照して、移動柱上部・下部キャップを取り付けてください。

移動柱上部・下部キャップは**ヒレ**が下図の向きになるように取り付けてください。**ヒレ**を逆の向きに取り付けると角地部材が扉本体に取り付かなくなります。



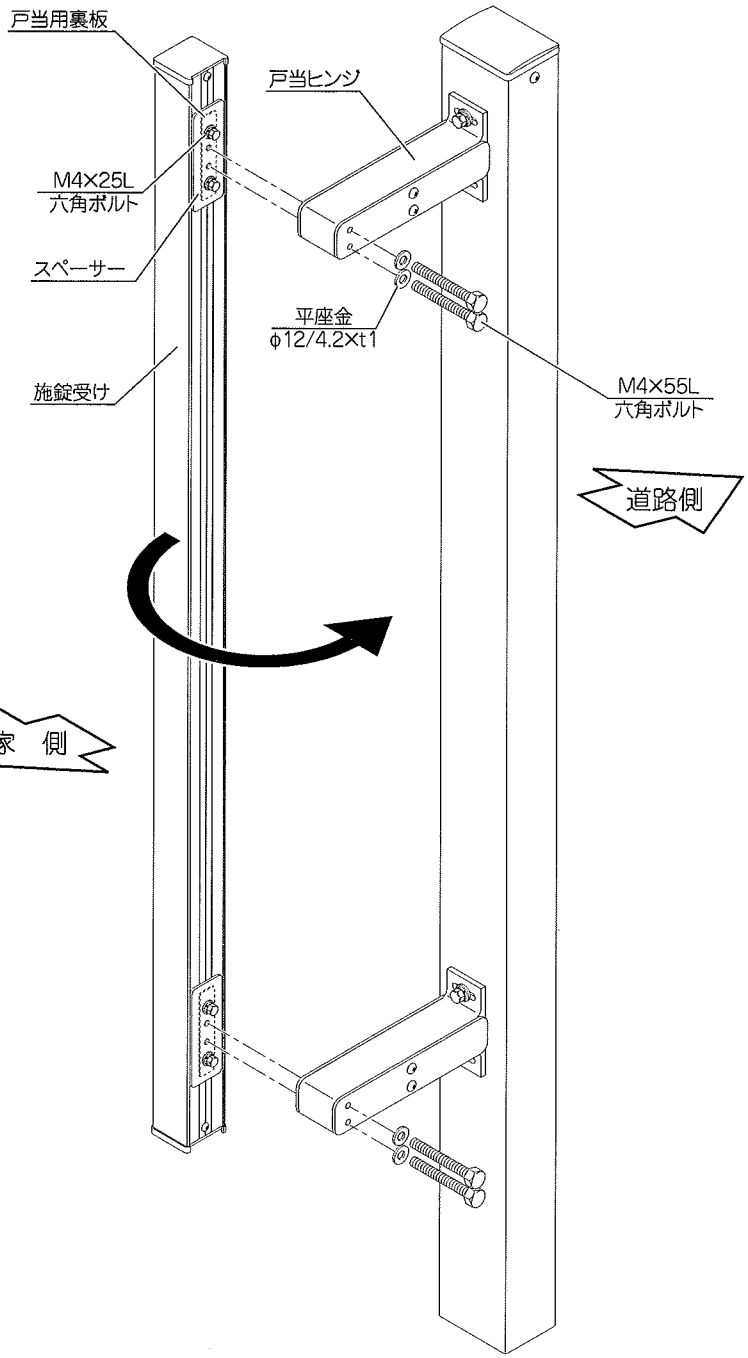


2 戸当柱の組み替え（片開き、片開き親子、片開き角地納まりの場合）
※外観右勝手の場合は組み替えの必要はありません。

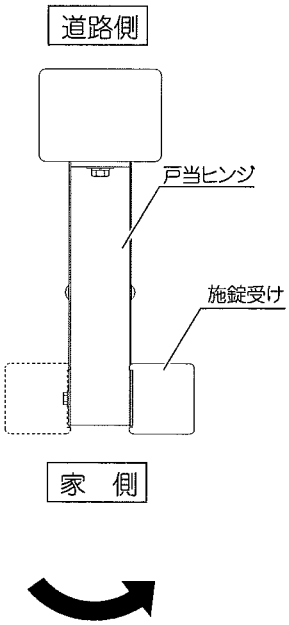
■片開き・片開き親子・片開き角地納まりで**外観左勝手にする場合は**戸当柱の組み替えが必要になります。

①戸当ヒンジと施錠受けを固定しているM4×55L六角ボルトを取り外してください。

施錠受けのスペーサーを取り付けているM4×25L六角ボルトは取り外さないでください。
このM4×25L六角ボルトを取り外すと戸当用裏板が脱落して施錠受けを取り付けることができなくなります。



②施錠受けを反対側に取り付けてください。

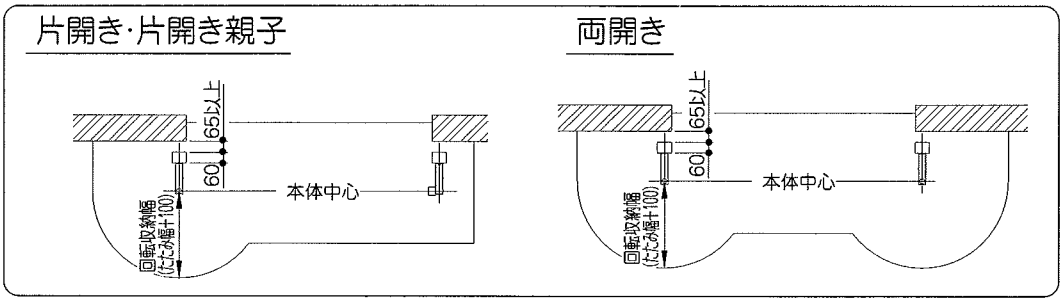


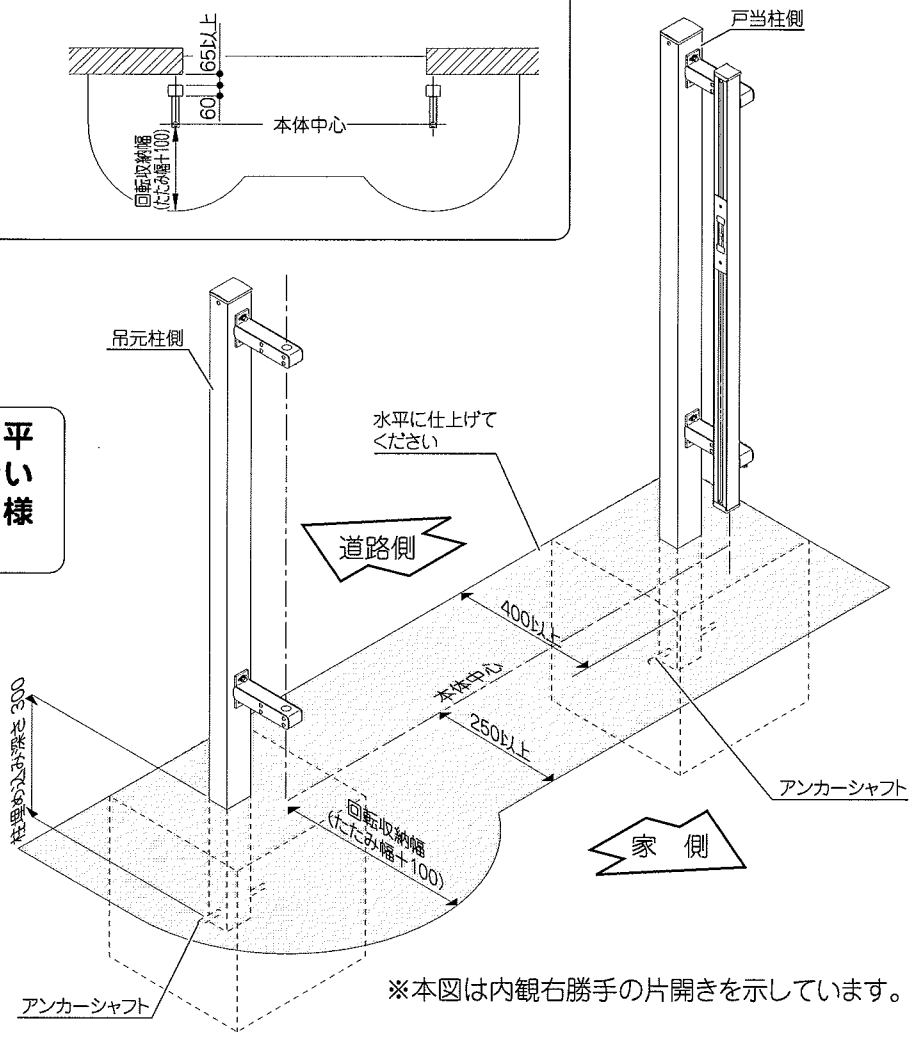
3 柱の埋設

① 柱の埋込み位置は納まり図及び規格寸法表（P6～P10）を参照し、決定してください。
② 回転収納部の土間納まりは、図を参照の上整地してください。下の平面図は片開き・片開き親子・両開きを示していますが、片開き角地・両開き角地の場合も同様に整地してください。
③ 柱にアンカーシャフトを差し込み、水平・垂直に埋め込んでください。
カーゲート走行面は、水平に仕上げてください。
モルタルが完全に固まるまで動くことのないよう、十分養生してください。

⚠注意

柱の埋設は、設置の際の注意事項（下記）、納まり図及び規格寸法表（P6～P10）を参照の上、行ってください。
全幅を規格寸法以上に広げないでください。又、埋設は正確に行ってください。





カーゲート走行面は、水平・平滑に仕上げ水勾配をつけないでください。回転収納面も同様に仕上げてください。

※本図は内観右勝手の片開きを示しています。

設置の際の注意事項

●回転収納時・ハンドル操作等に支障がない様、下記の寸法取り合いにしてください。

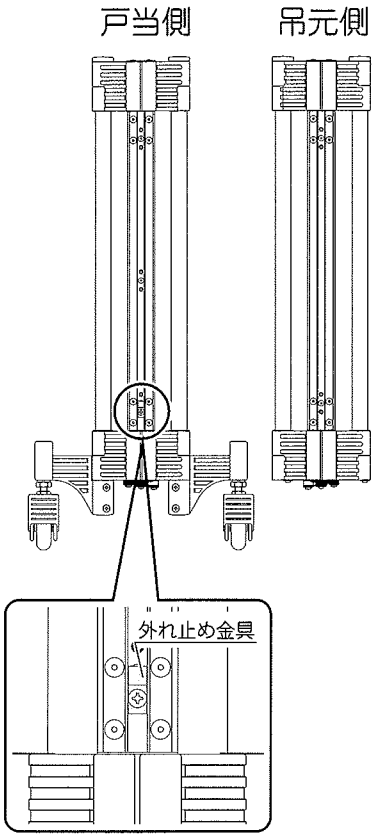
塀と直角になる場合		塀と平行になる場合	
戸当り柱側	吊元柱側	戸当り柱側	吊元柱側
10以上	325以上 65以上	65以上 103.5以下	65以上

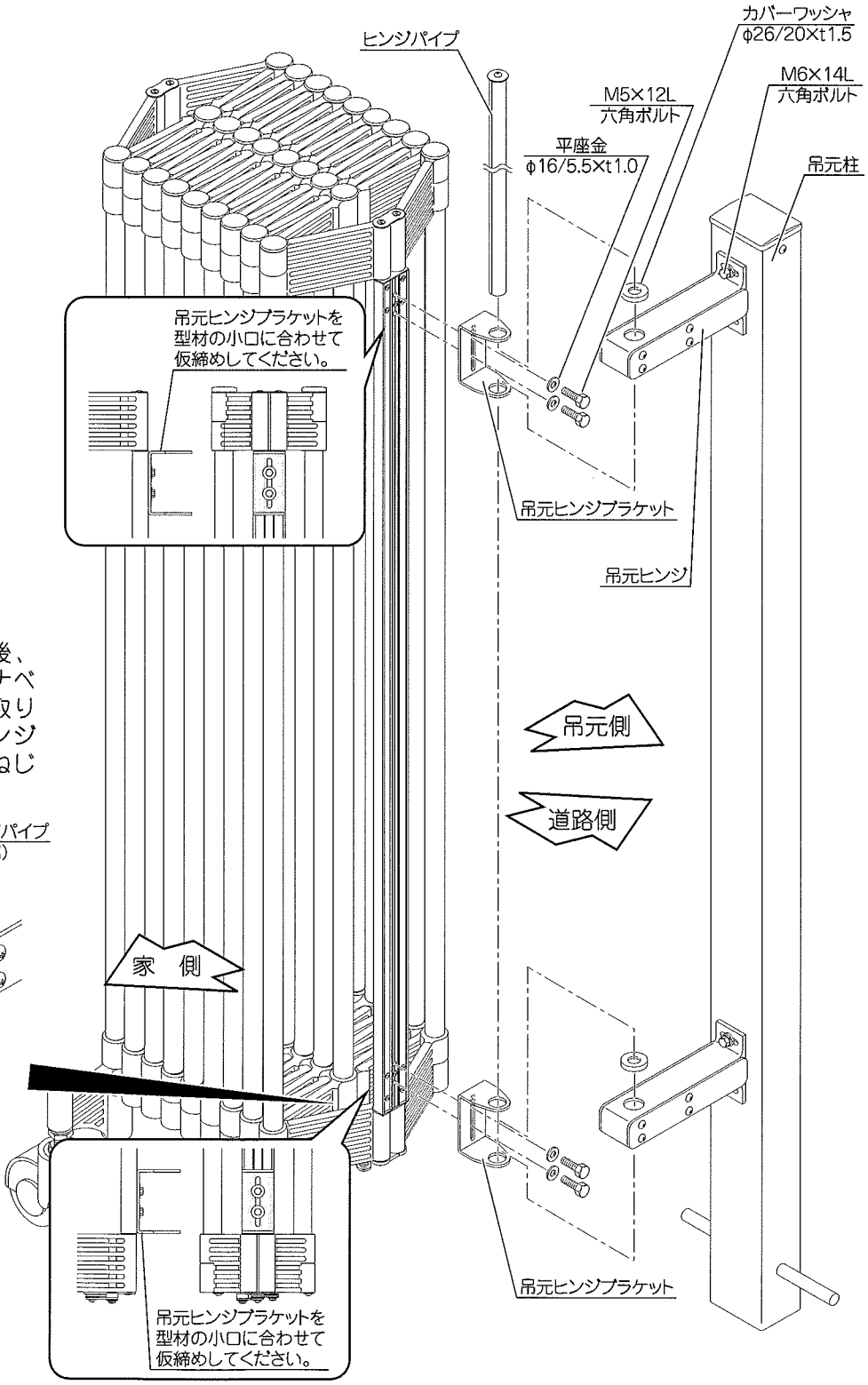
4 扉本体の吊り込み

①下図の扉本体側面図で吊元側を確認し、吊元側に吊元ヒンジブラケットをM5×12L六角ボルトで仮締めしてください。このボルトは扉本体調整後本締めします。現段階では締め切らないでください。

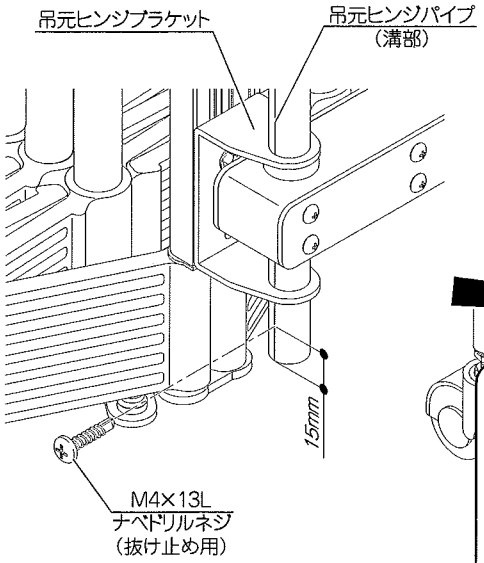
②吊元ヒンジブラケットと吊元ヒンジの間にカバーワッシャーを各1枚入れ、吊元ヒンジパイプを通し、扉本体を吊り込んでください。

ポイント　吊元ヒンジパイプが通りにくい場合は吊元ヒンジを取り付けているM6×14L六角ボルトをゆるめ、吊元ヒンジを調整し、通してください。





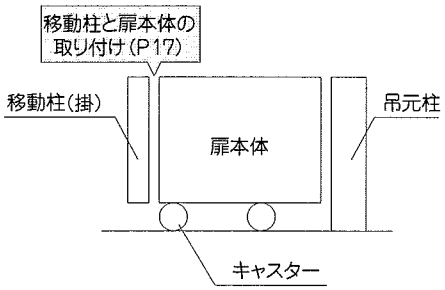
③吊元ヒンジパイプを通した後、抜け止めのためのM4×13Lナベドリルネジを下図の位置に取り付けてください。ネジはヒンジパイプ表面の溝をねらってねじ込んでください。



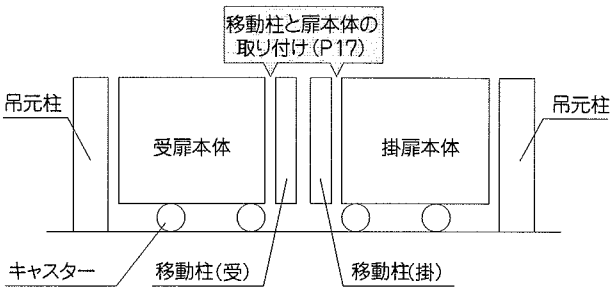
5 移動柱と扉本体の取り付け方法

※本図は右勝手を示しています。
※片開き角地、両開き角地は上面図、
および出隅納まりを示しています。

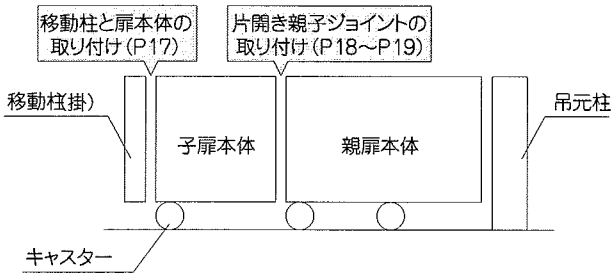
片開きの場合



両開きの場合

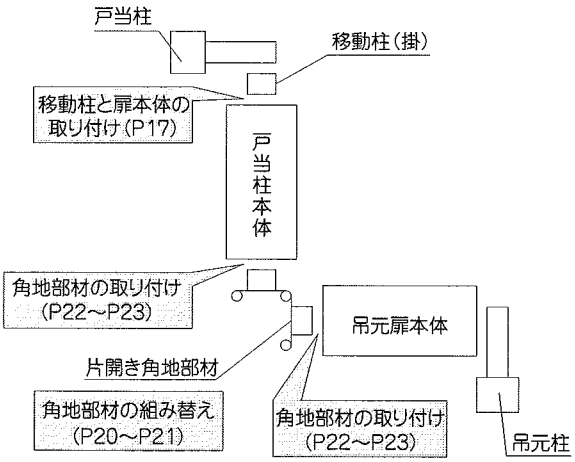


片開き親子の場合

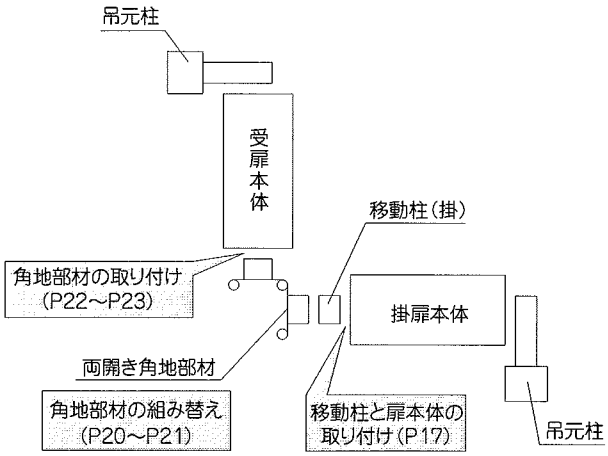


ポイント　移動柱は、扉本体の先端キャスターが取り付いている側に取り付けます。

片開き角地の場合



両開き角地の場合



■上図を参照の上、次ページ(P17)の「■移動柱と扉本体の取り付け方法」の手順に従って取り付けを行ってください。
■移動柱の取り付け作業が終了しましたら、下記のページへすすんでください。

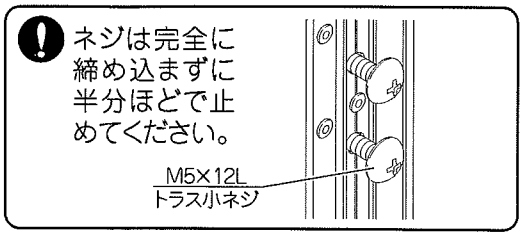
- ·片開きの場合 …… 「■移動柱と扉本体の取り付け」(P17) →「扉本体の調整方法」(P24～)
- ·両開きの場合 …… 「■移動柱と扉本体の取り付け」(P17) →「扉本体の調整方法」(P24～)
- ·片開き親子の場合 …… 「■移動柱と扉本体の取り付け」(P17) →「 6 片開き親子ジョイントの取り付け方法」(P18～)
- ·片開き角地の場合 …… 「■移動柱と扉本体の取り付け」(P17) →「 7 角地部材の組み替え」(P20～)
- ·両開き角地の場合 …… 「■移動柱と扉本体の取り付け」(P17) →「 7 角地部材の組み替え」(P20～)

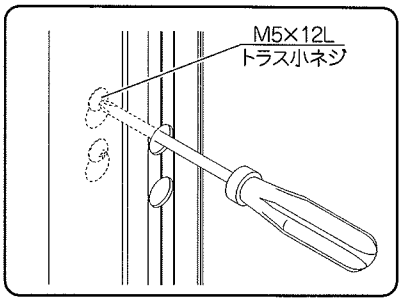
移動柱と扉本体の取り付け方法

①下図を参照し、扉本体にM5×12Lトラス小ネジを取り付けてください。
②移動柱の∩孔に、①で取り付けたトラス小ネジの頭を角孔に**外れ止め金具を同時に差し込み**下にスライドさせ取り付けてください。

※本図は移動柱（掛）を示します。
移動柱（受）と扉本体の取り付けも同様です。

③①で取り付けたトラス小ネジが∩孔の図Ⓐの位置にあることを確認し、反対面の孔からドライバーを差し込み、完全に締め、その孔にビス孔ふさぎを取り付けてください。





扉本体側面図

戸当側

外れ止め金具

図Ⓐ

この位置までスライドさせてください。

M5×12L
トラス小ネジ

移動柱の本体取付面

移動柱（掛）

ビス孔ふさぎ

∩孔

∩孔

角孔

角孔

外れ止め金具

外れ止め金具を角孔に必ず差し込んでください。

扉本体

移動柱

外れ止め金具

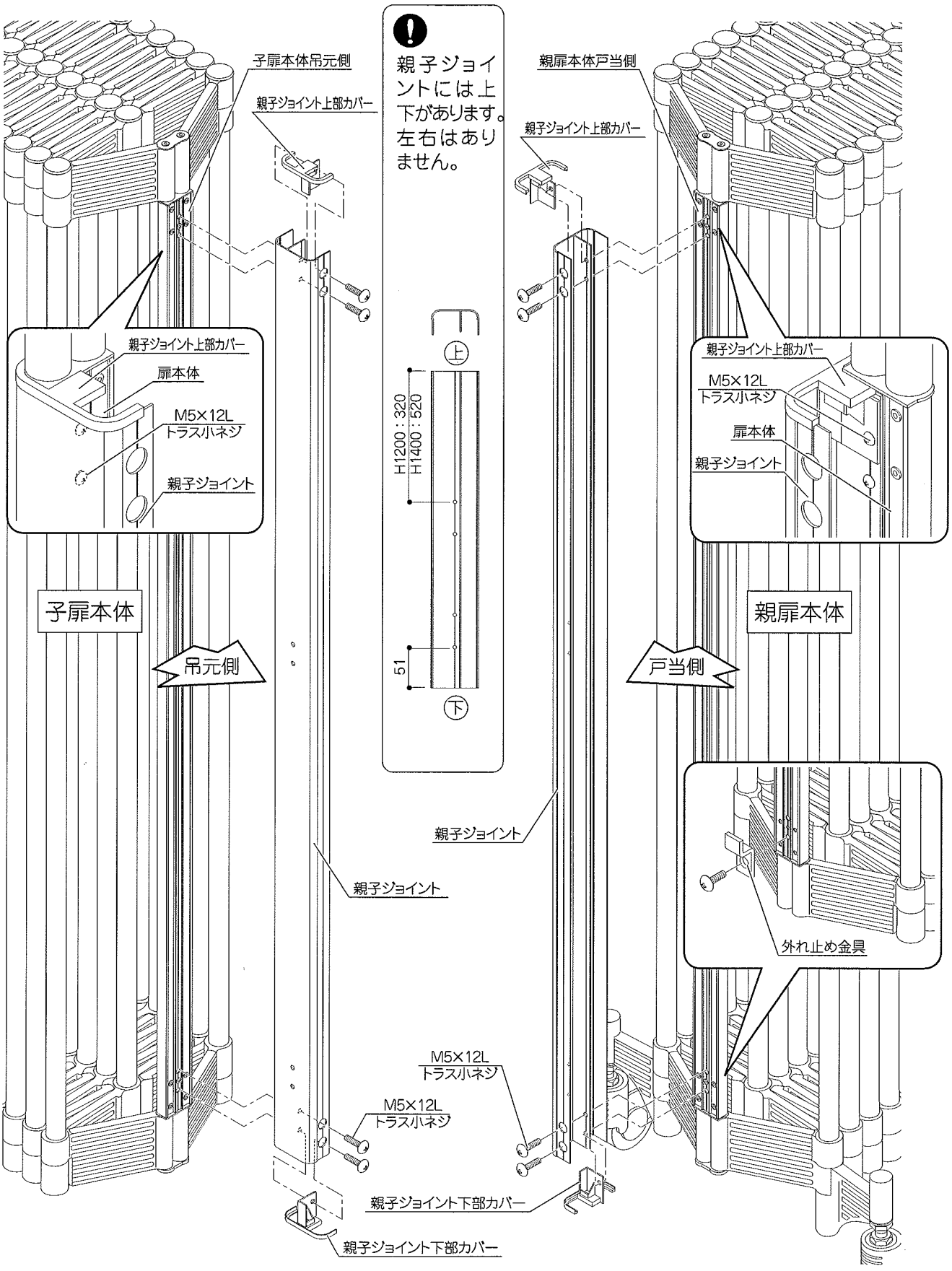
角孔

差し込む

下へスライド

6 片開き親子ジョイントの取り付け方法（片開き親子納まりの場合のみ）

①親扉本体の戸当側に取り付いている外れ止め金具を取り外してください。（取り外した外れ止め金具は使用しません。）
②親子ジョイントと親子ジョイント上部・下部カバーを親扉本体の戸当側にM5×12Lトラス小ネジで**共締め**してください。子扉本体の吊元側にも同様に取り付けてください。



③親扉本体の親子ジョイントと、落し棒用ガイドを親子ジョイント金具にM4×10Lトラスタッピンネジで**共締め**してください。

④親･子扉本体の親子ジョイントを、図の矢印の方向にはめ込んで連結し、親子ジョイント金具に落し棒用ガイドと親子ジョイントをM4×10Lトラスタッピンネジで**共締め**してください。

⑤落し棒用ガイドカバーをはめ込みM4×10Lトラスタッピンネジで取り付けてください。(4箇所)

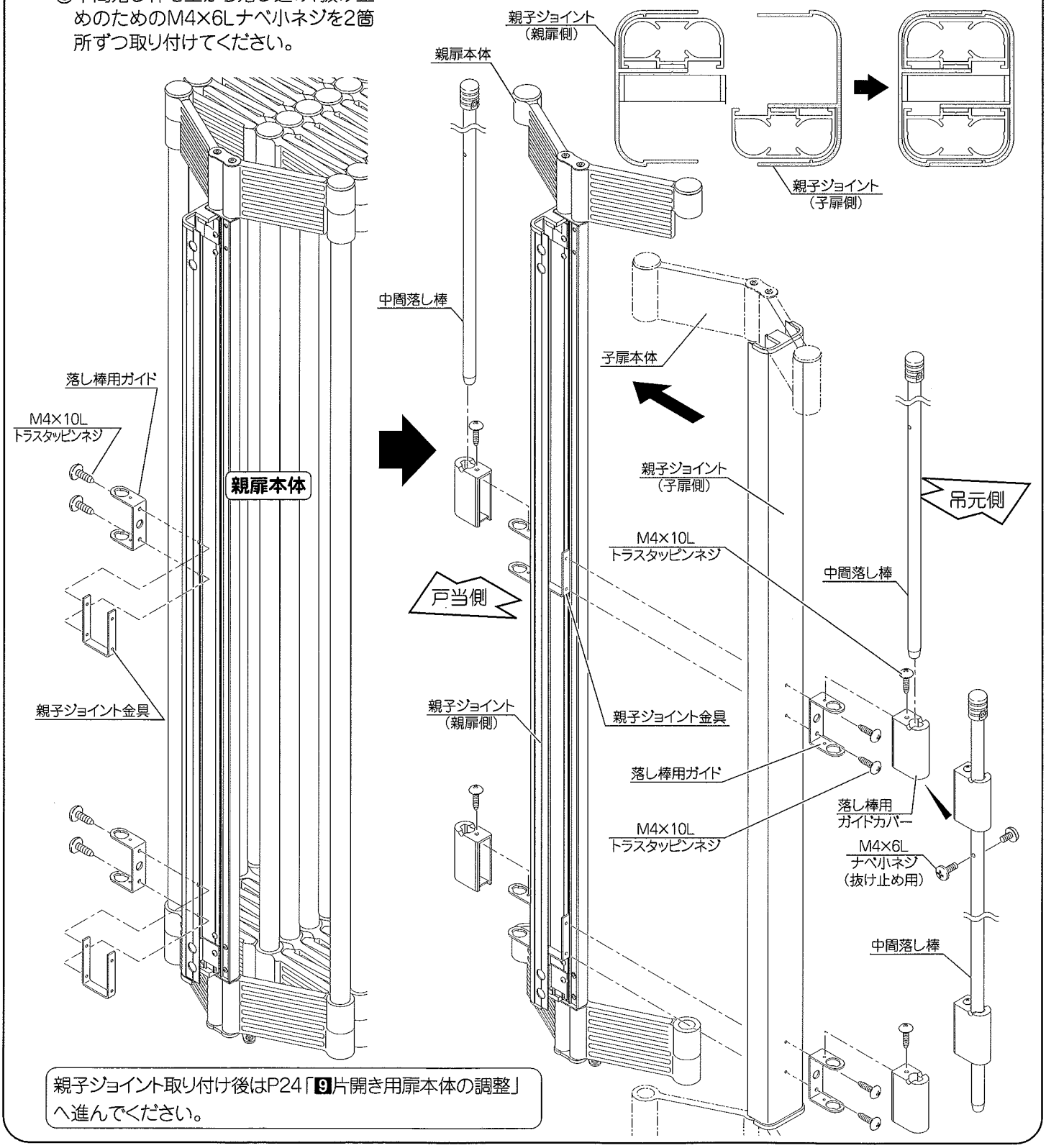
⑥中間落し棒を上から落し込み、抜け止めのためのM4×6Lナベ小ネジを2箇所ずつ取り付けてください。

■中間落し棒セット(SK-1259)部品詳細(1セット当り)

名　称	略　図	数量	名　称	略　図	数量
中間落し棒		1	落し棒受け		1
落し棒用ガイド		2	M4×10L トラスタッピンネジ		10
落し棒用ガイドカバー		2	M4×6L ナベ小ネジ		2

※M4×10Lトラスタッピンネジは1セット当り4個不要です。

■納まり断面図



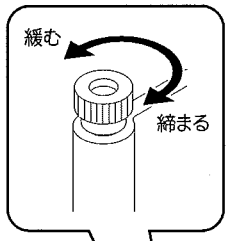
親子ジョイント取り付け後はP24「9片開き用扉本体の調整」へ進んでください。

7 角地部材の組み替え方法（角地納まりの場合のみ）
※外観右勝手出隅納まりと外観左勝手入隅納まりの場合は組み替えの必要はありません。

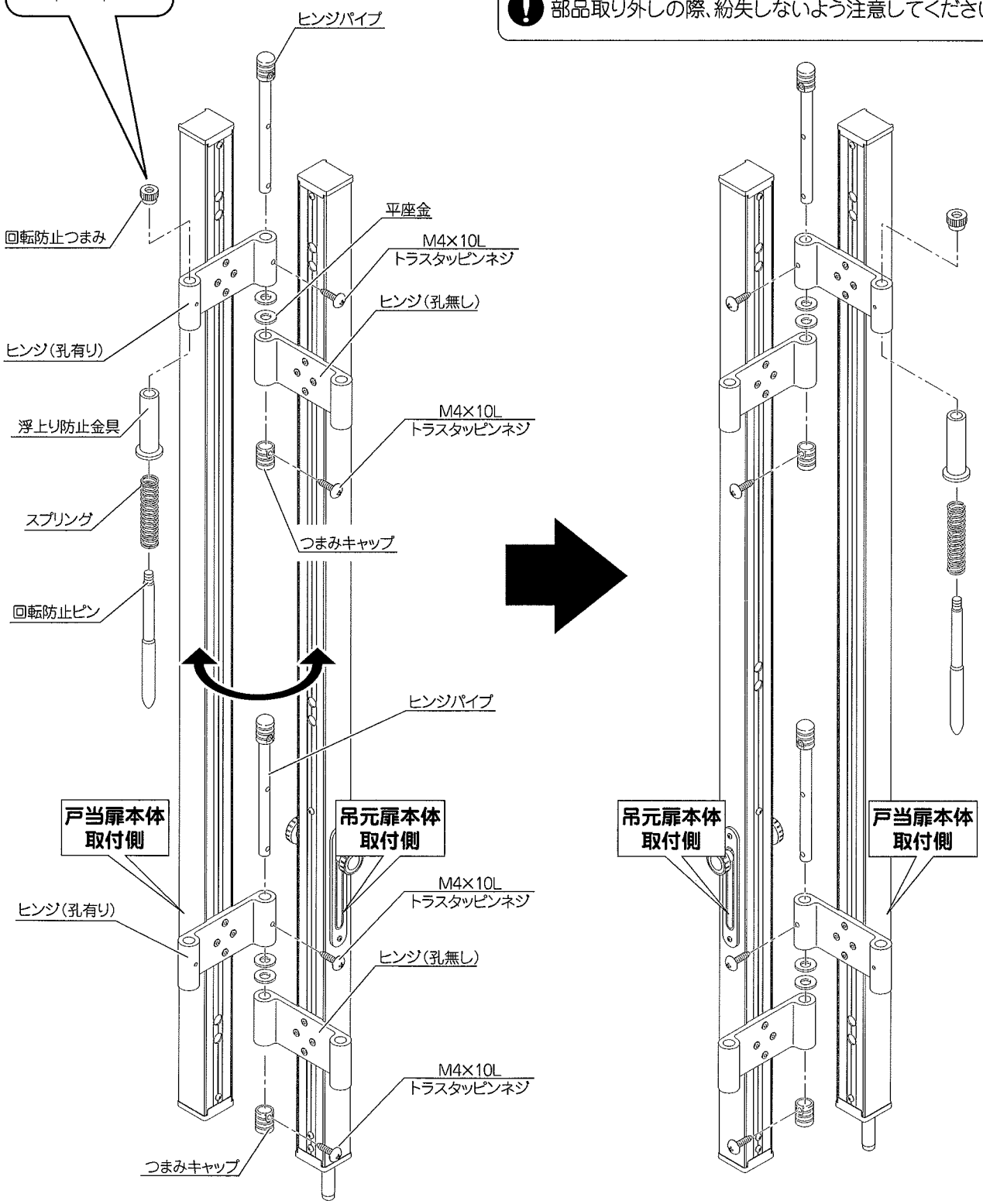
■外観左勝手出隅納まりと外観右勝手入隅納まりにする場合は角地部材の組み替えが必要になります。
下記の手順で組み替えを行ってください。

■片開き角地部材の組み替え（両開き角地部材の組み替えはP21をご覧ください。）

①つまみキャップとヒンジ（孔有り）に取り付いているM4×10Lトラスタッピンネジを外し、ヒンジパイプを抜いてください。（上下共）
②回転防止つまみを回して回転防止ピンを外してください。
③部材を入れ替え、組み立ててください。

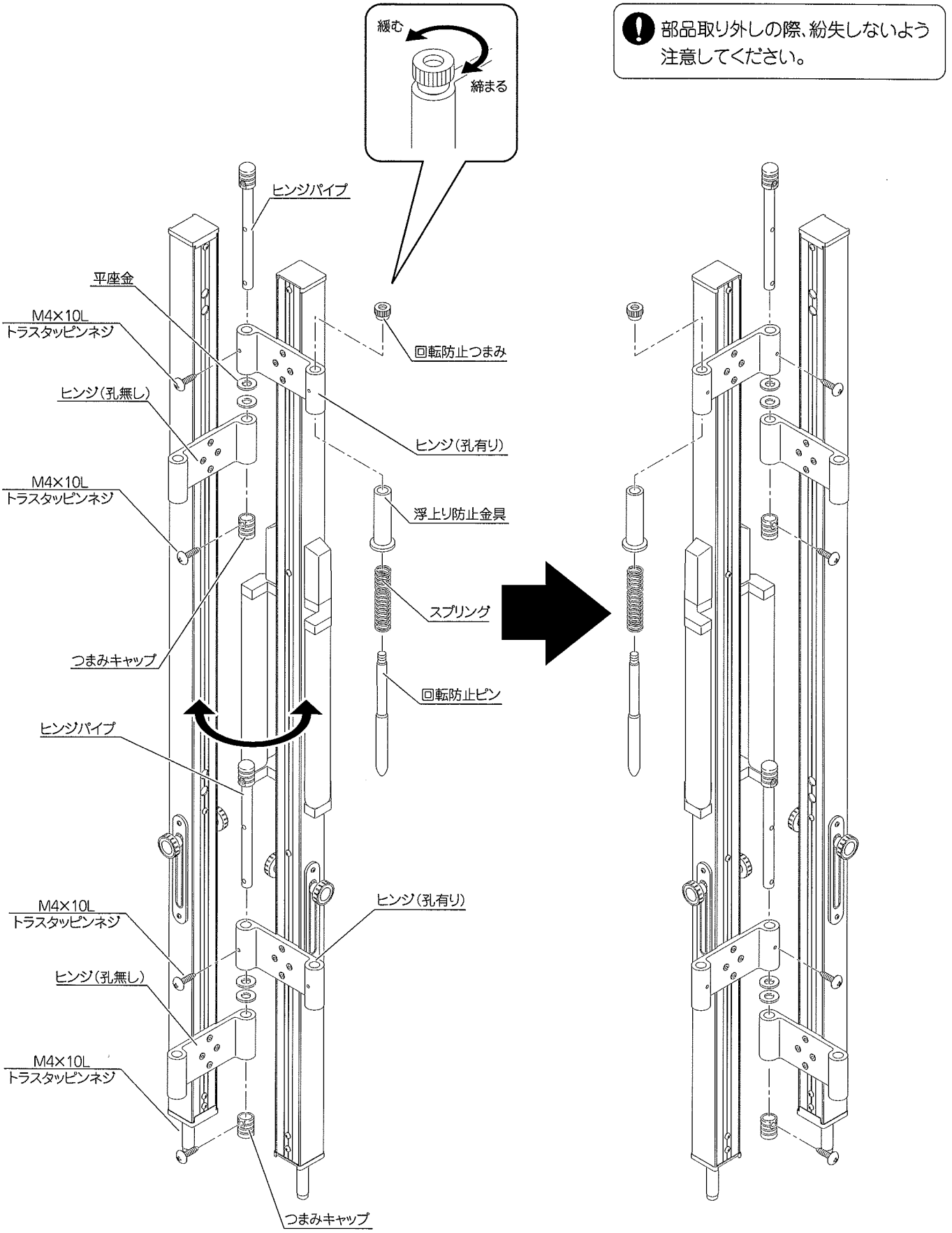


! 部品取り外しの際、紛失しないよう注意してください。



■両開き角地部材の組み替え

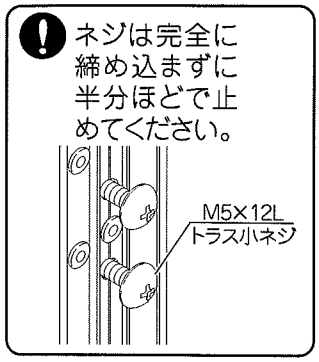
①つまみキャップとヒンジ（孔有り）に取り付いているM4×10Lトラスタッピンネジを外し、ヒンジパイプを抜いてください。（上下共）
②回転防止つまみを回して回転防止ピンを外してください。
③部材を入れ替え組み立ててください。

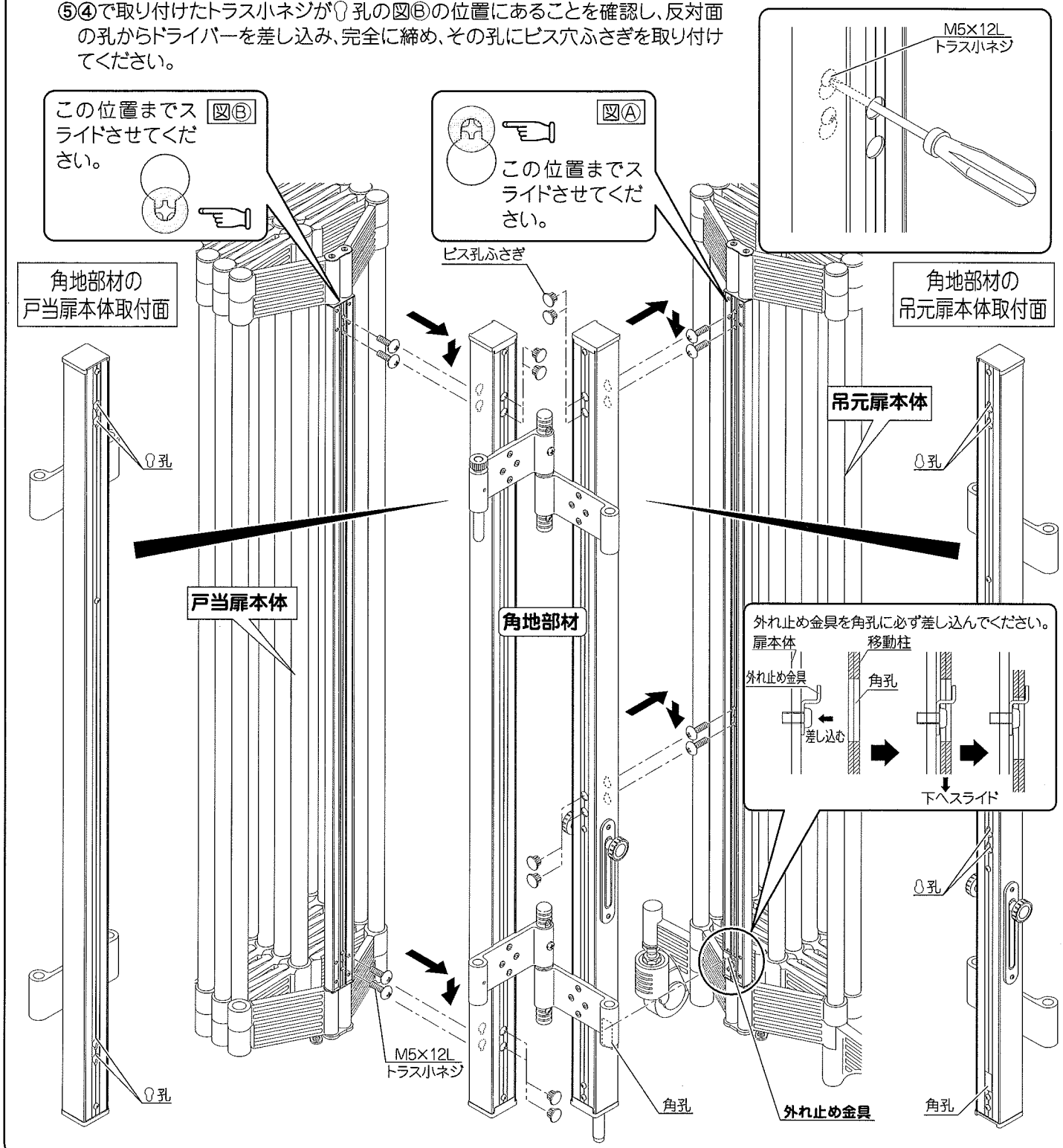


8 角地部材の取り付け方法（角地納まりの場合のみ）

■片開き角地部材の取り付け

①各扉本体にM5×12Lのトラス小ネジを取り付けてください。
②角地部材（落し棒が付いている側）と吊元扉本体の取り付け
●角地部材の孔に①で取り付けたトラス小ネジの頭を、角孔に**外れ止め金具を同時に差し込み、**下へスライドさせ、取り付けてください。
③②で取り付けたトラス小ネジが孔の図Ⓐの位置にあることを確認し、反対面の孔からドライバーを差し込み、完全に締め、その孔にビス孔ふさぎを取り付けてください。
④角地部材と戸当扉本体の取り付け
●①で取り付けたトラス小ネジの頭部を角地部材の孔に差し込み、下へスライドさせ、取り付けてください。
⑤④で取り付けたトラス小ネジが孔の図Ⓑの位置にあることを確認し、反対面の孔からドライバーを差し込み、完全に締め、その孔にビス穴ふさぎを取り付けてください。



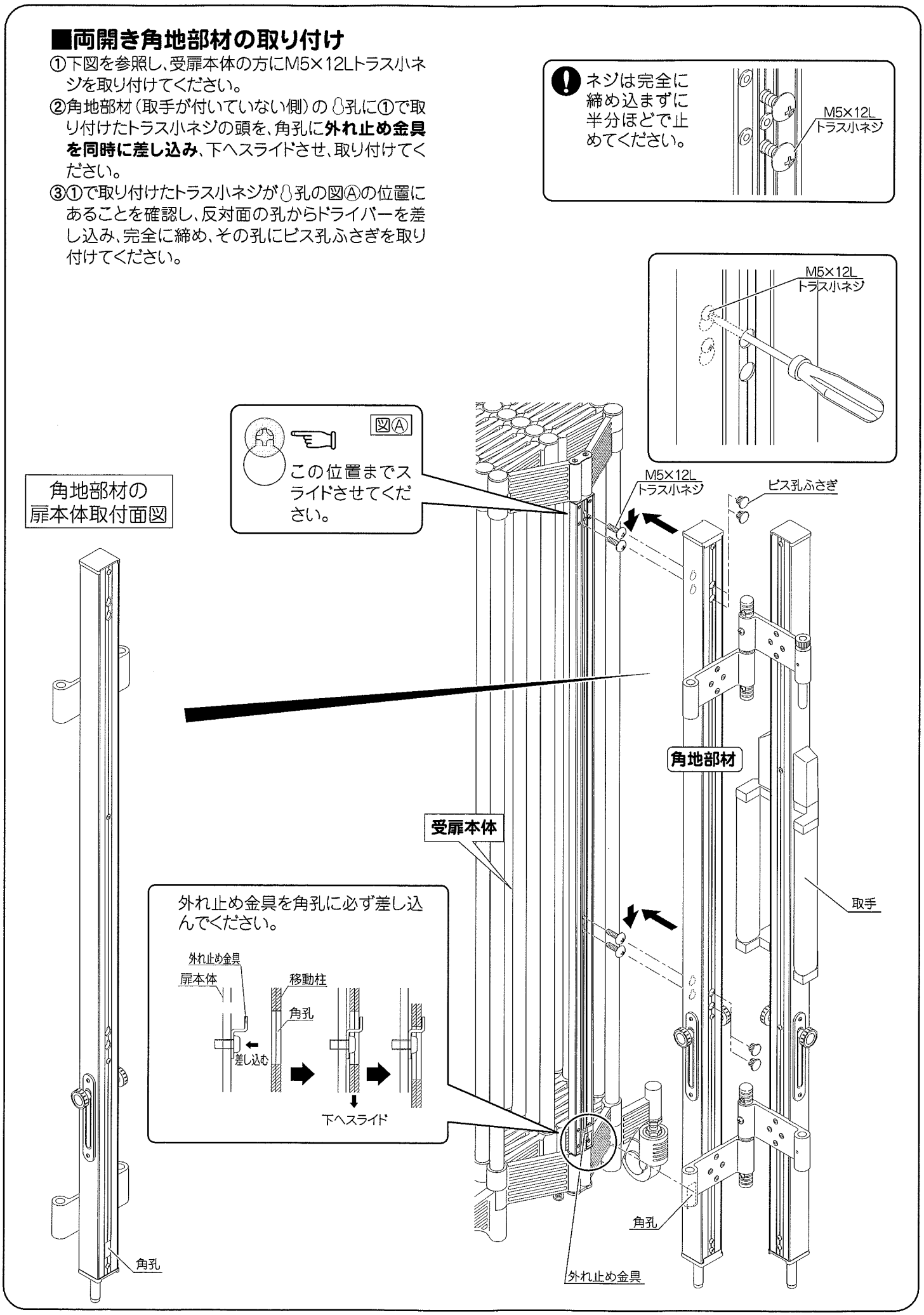


■両開き角地部材の取り付け

①下図を参照し、受扉本体の方にM5×12Lトラス小ネジを取り付けてください。

②角地部材（取手が付いていない側）の孔に①で取り付けたトラス小ネジの頭を、角孔に**外れ止め金具を同時に差し込み**、下へスライドさせ、取り付けてください。

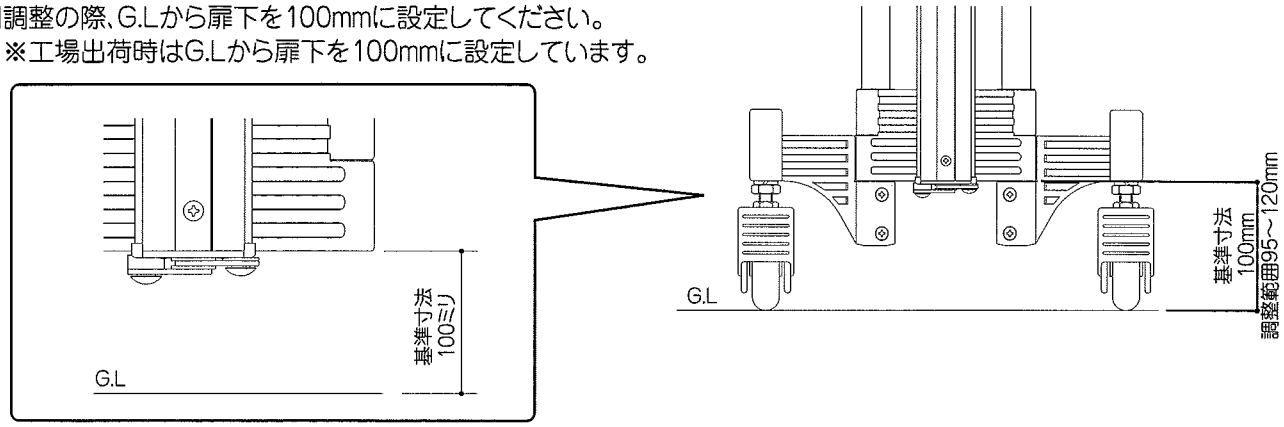
③①で取り付けたトラス小ネジが孔の図Ⓐの位置にあることを確認し、反対面の孔からドライバーを差し込み、完全に締め、その孔にビス孔ふさぎを取り付けてください。



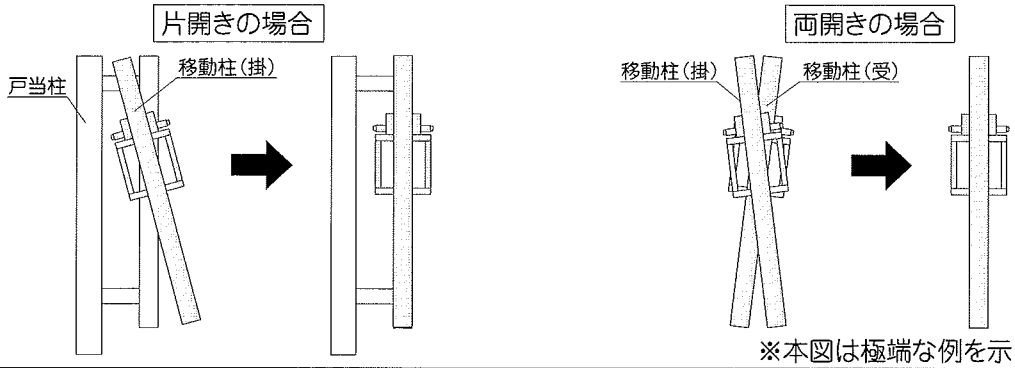
扉本体の調整方法

❗ 扉本体の調整は、キャスター高さと吊元ヒンジブラケットで行ってください。

■調整の際、G.Lから扉下を100mmに設定してください。
※工場出荷時はG.Lから扉下を100mmに設定しています。



❗ 現場の状態により、扉本体が内外方向に傾き、下図のように戸当り面にずれが生じる場合があります。
移動柱が垂直になるようにキャスターの高さを調整してください。



※本図は極端な例を示しています。

■扉本体の高さ調整を行う際、下記の点を確認しながら行ってください。

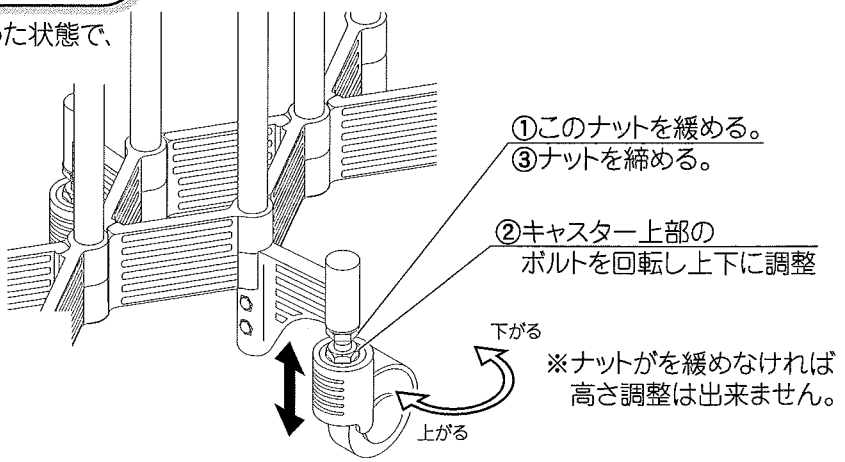
①扉本体を閉めた状態で、移動柱が垂直になっているか、また各キャスター部のG.Lから扉下が100mmになっているかを確認してください。➡「9キャスターの高さ調整」

②扉本体がキャスター部上面で水平になっているかを確認してください。
（※キャスター部以外の箇所は自重により若干たわみます。）
➡片開き:「10片開き用扉本体の高さ調整」　➡両開き:「12両開き用扉本体の高さ調整」

③片開きの場合、移動柱（掛）と施錠受けの上面をそろえてください。
➡「11片開き用施錠受けの高さ調整」
「11片開き用施錠受けの高さ調整」を行っても移動柱（掛）と施錠受けの上面がそろわない場合は「9キャスターの高さ調整」で上面がそろうように調整を行ってください。

9 キャスターの高さ調整

■キャスターの高さ調整は、扉を閉めた状態で、下図を参照し、調整してください。

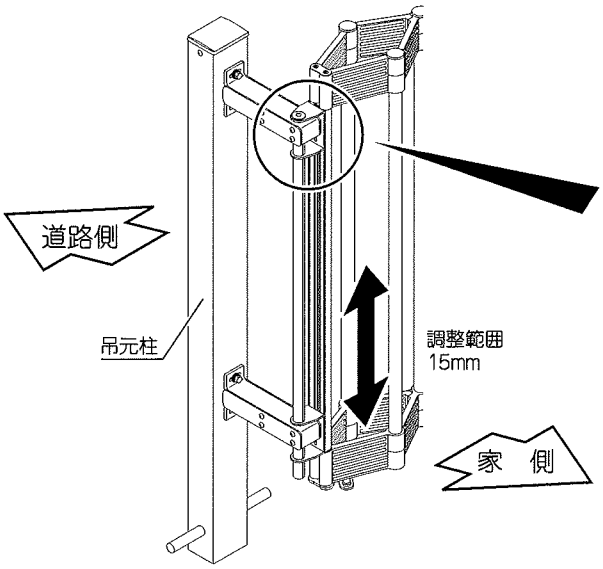


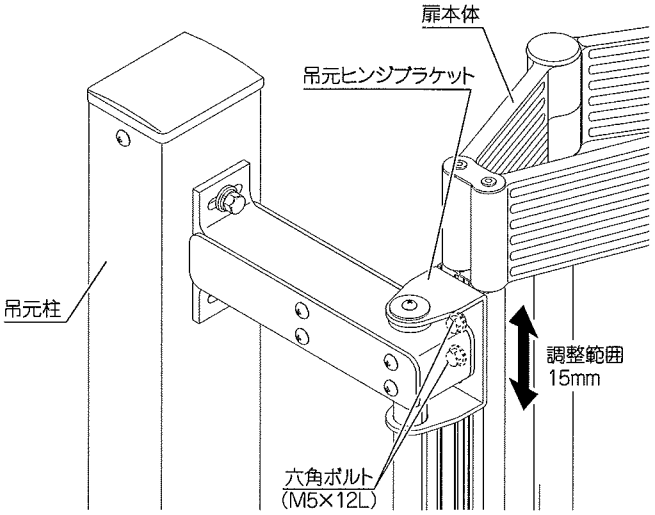
10 片開き用扉本体の高さ調整（片開き、片開き親子、角地納まりの場合）

■上下の吊元ヒンジブラケットの六角ボルトをゆるめ、扉本体が水平になるように吊元ヒンジブラケットの長孔で調整し、六角ボルトを本締めしてください。

同時にキャスターの高さも調整してください。G.Lから扉下を100mmに設定してください。（P24「9キャスターの高さ調整」）

調整が必要ない場合も六角ボルトを本締めしてください。

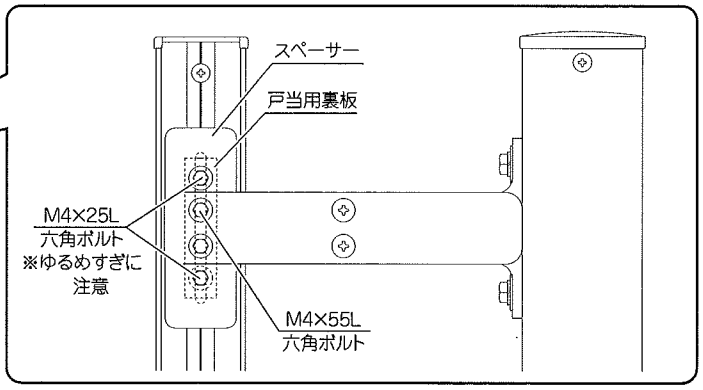


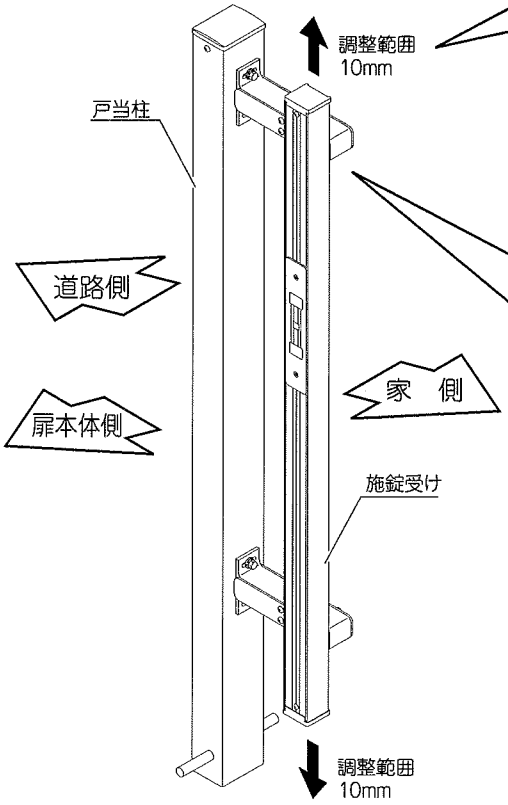


11 片開き用施錠受けの高さ調整（片開き、片開き親子、角地納まりの場合）

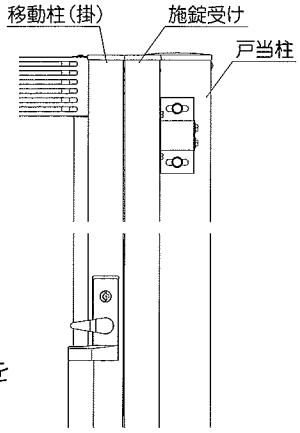
■上下のM4×55L六角ボルトとM4×25L六角ボルトをゆるめ、扉を閉めた状態で移動柱（掛）と施錠受けの上面がそろうように上下に調整し、ボルトを締めてください。

M4×25L六角ボルトをゆるめ過ぎると戸当用裏板が脱落して、施錠受けを取り付けることができなくなります。





移動柱（掛）と施錠受けの上面をそろえてください。



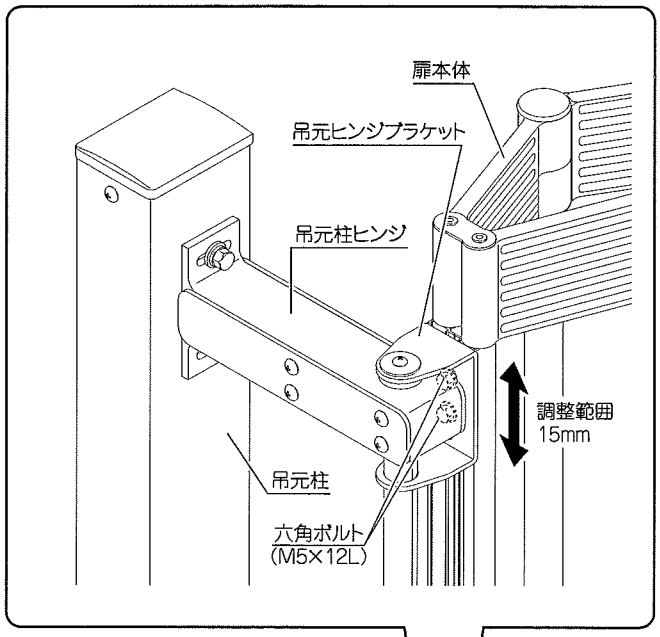
※本図は内観図を示しています。

12 両開き用扉本体の高さ調整（両開き、両開き角地納まりの場合）

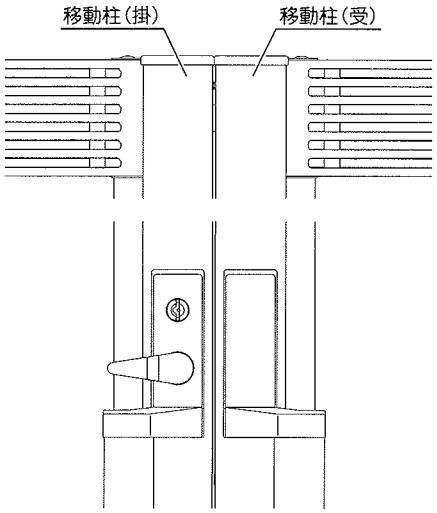
■上下の吊元ヒンジブラケットの六角ボルトをゆるめ、扉を閉めた状態で、扉本体が水平になるように、また移動柱（掛）と移動柱（受）の上面がそろうように調整し、六角ボルトを本締めしてください。

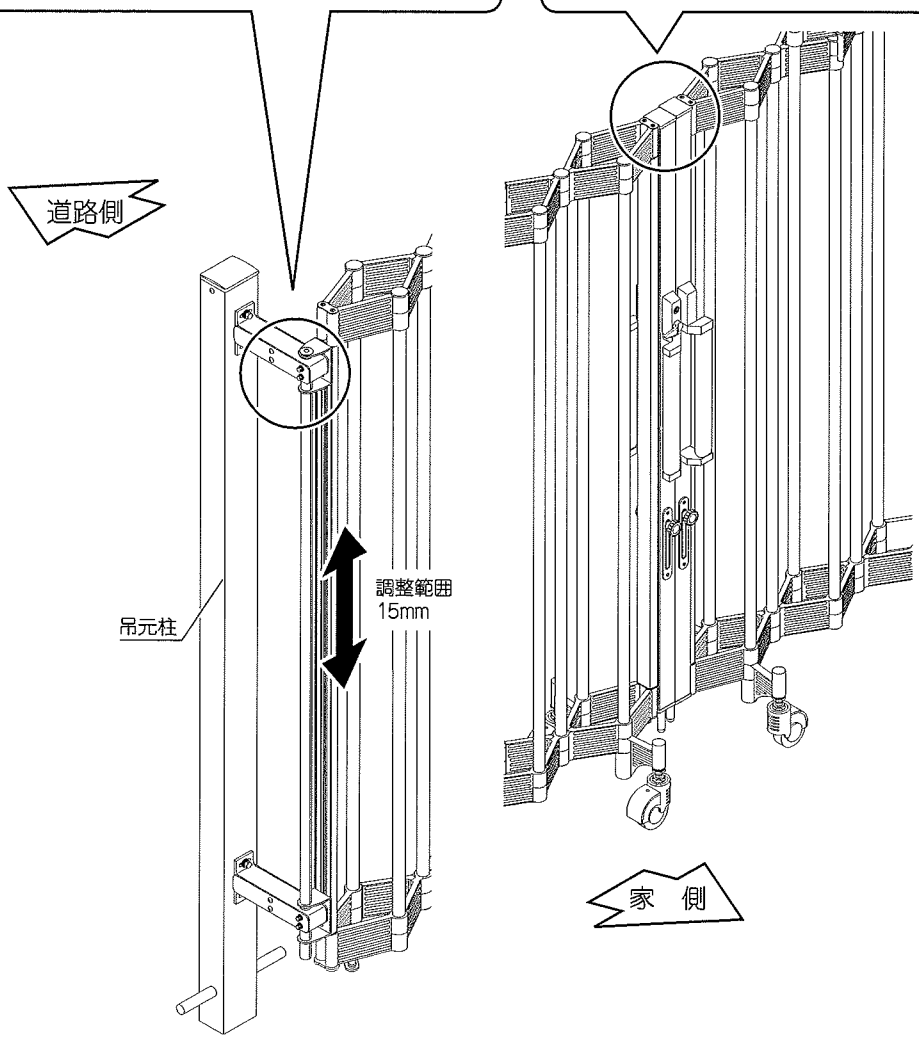
同時にキャスターの高さも調整してください。G.Lから扉下を100mmに設定してください。（P24「9キャスターの高さ調整」）

調整が必要ない場合も六角ボルトを本締めしてください。



移動柱（掛）と移動柱（受）の上面をそろえてください。





13 吊元柱・戸当柱と吊元・戸当ヒンジによる間口の調整幅

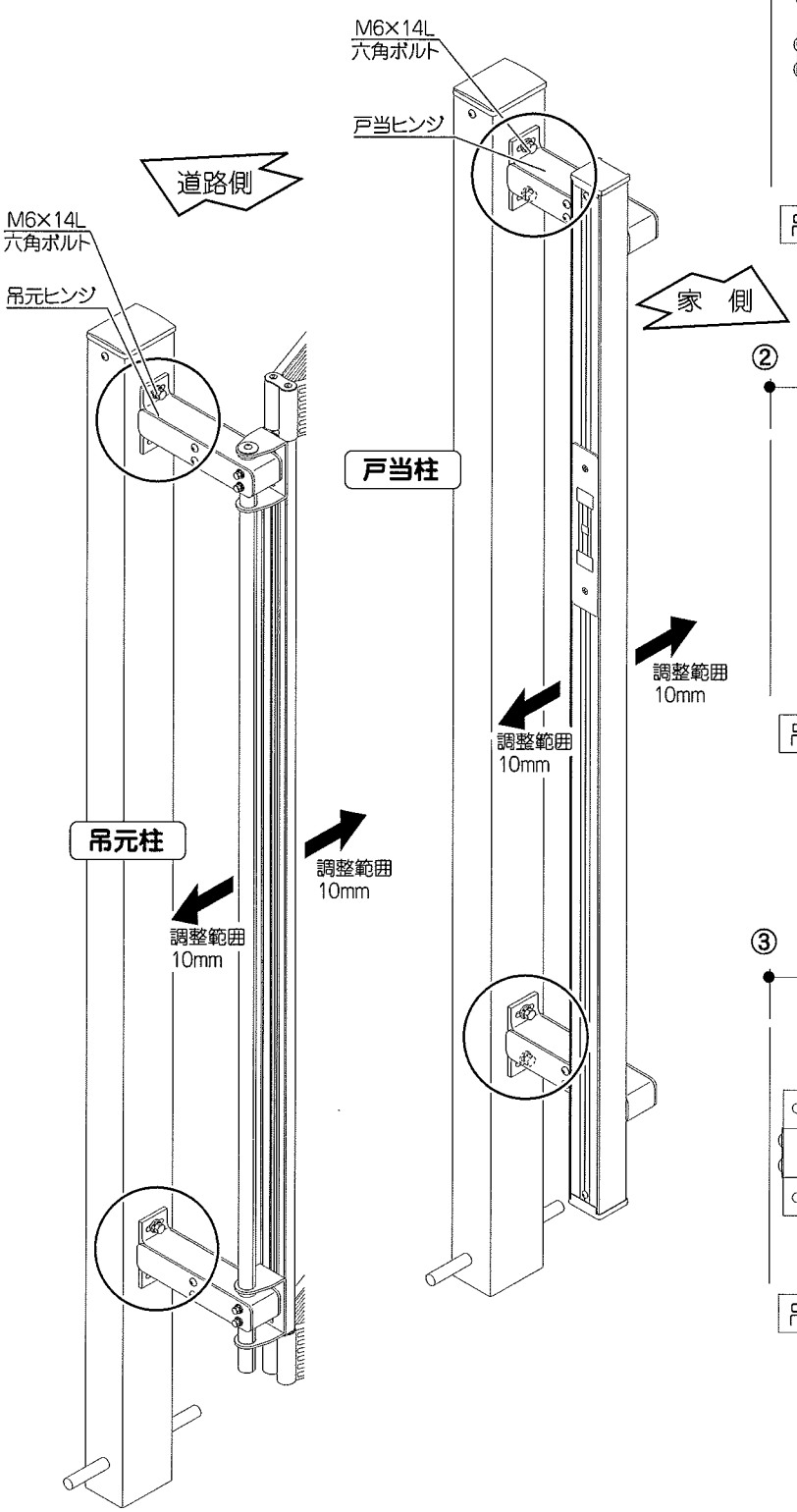
※調整用のM6×14Lボルトは、工場出荷時は仮締めしています。

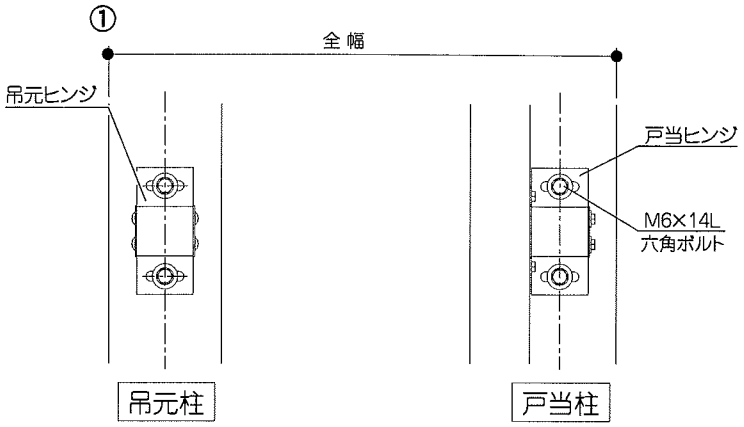
■納まり図・規格寸法表（P6～10）の全幅寸法での吊元・戸当ヒンジの取付基準は下図①のように、吊元・戸当ヒンジが柱の中心にありますが、②や③のように吊元・戸当ヒンジの長孔により±20mmまで調整できます。

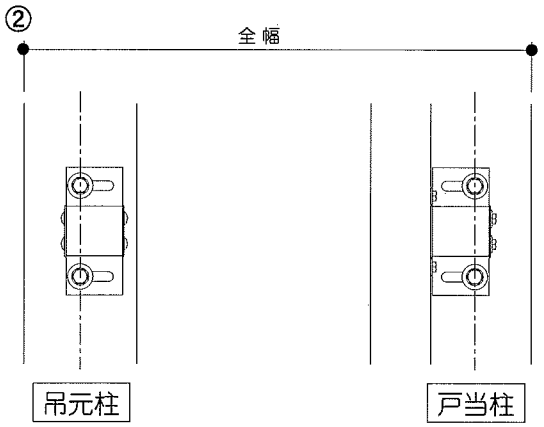
下図①・②・③は吊元柱・戸当柱の場合を示していますが吊元柱・吊元柱（両開き・両開き角地）の場合も同様に調整できます。

■調整用M6×14L六角ボルトは、工場出荷時は仮止めされていますので間口の調整が必要ない場合は、六角ボルトを**本締めしてください。**

■間口の調整が必要な場合はM6×14L六角ボルトをゆるめ、間口調整後、**本締めしてください。**

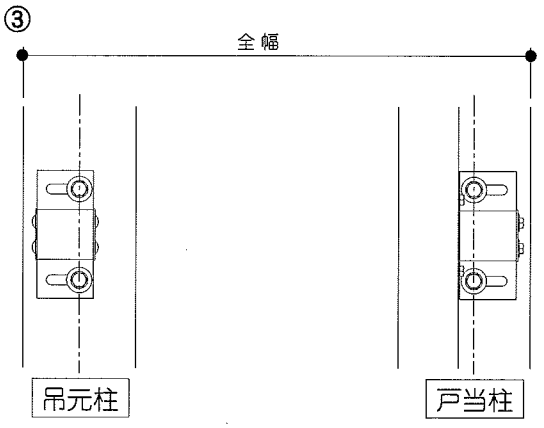






基準からの調整範囲

10ミリ ➡ ⬅ 10ミリ



基準からの調整範囲

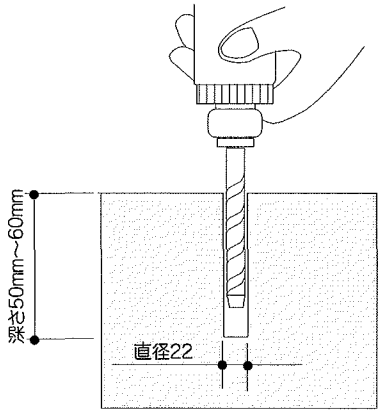
10ミリ ⬅ ➡ 10ミリ

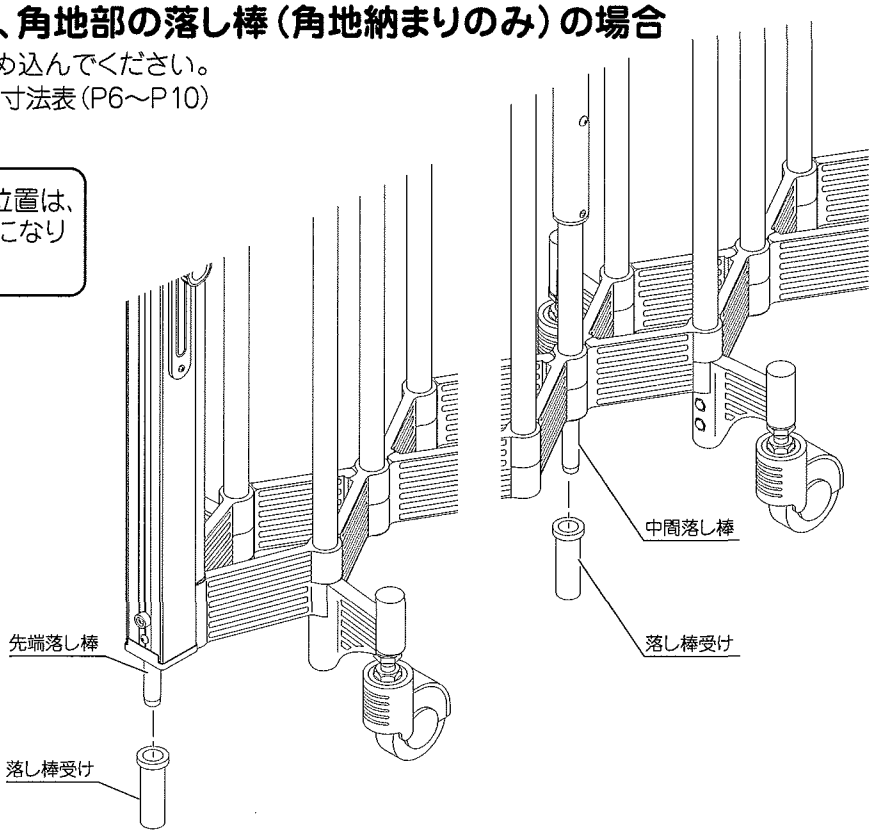
14 落し棒受けの埋め込み

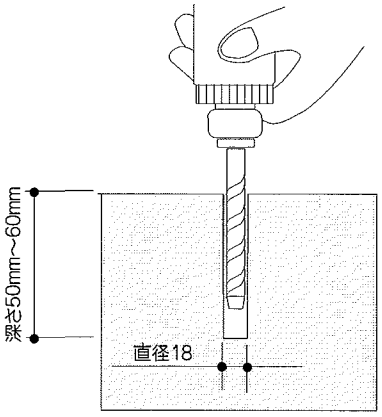
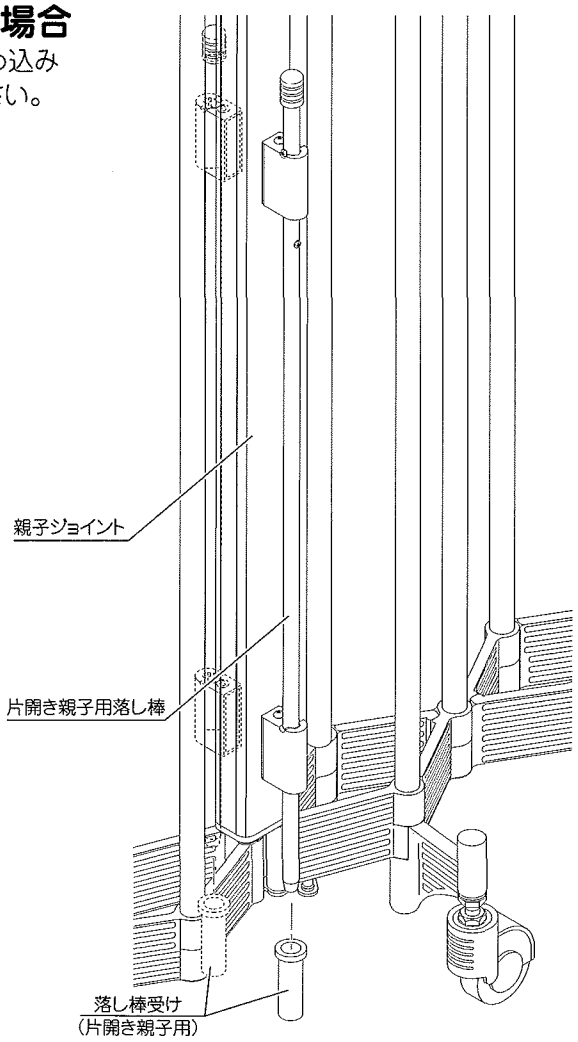
■先端落し棒、中間落し棒、角地部の落し棒（角地納まりのみ）の場合

現場に合わせて落し棒受けを埋め込んでください。
埋め込み位置は、納まり図及び規格寸法表（P6～P10）を参照してください。

! 回転収納部の落し棒受け埋設位置は、90度または180度のどちらかになります。





■片開き親子の親子ジョイント部落し棒の場合

現場に合わせて落し棒受けを埋め込んでください。埋め込み位置は、納まり図及び規格寸法表（P8）を参照してください。